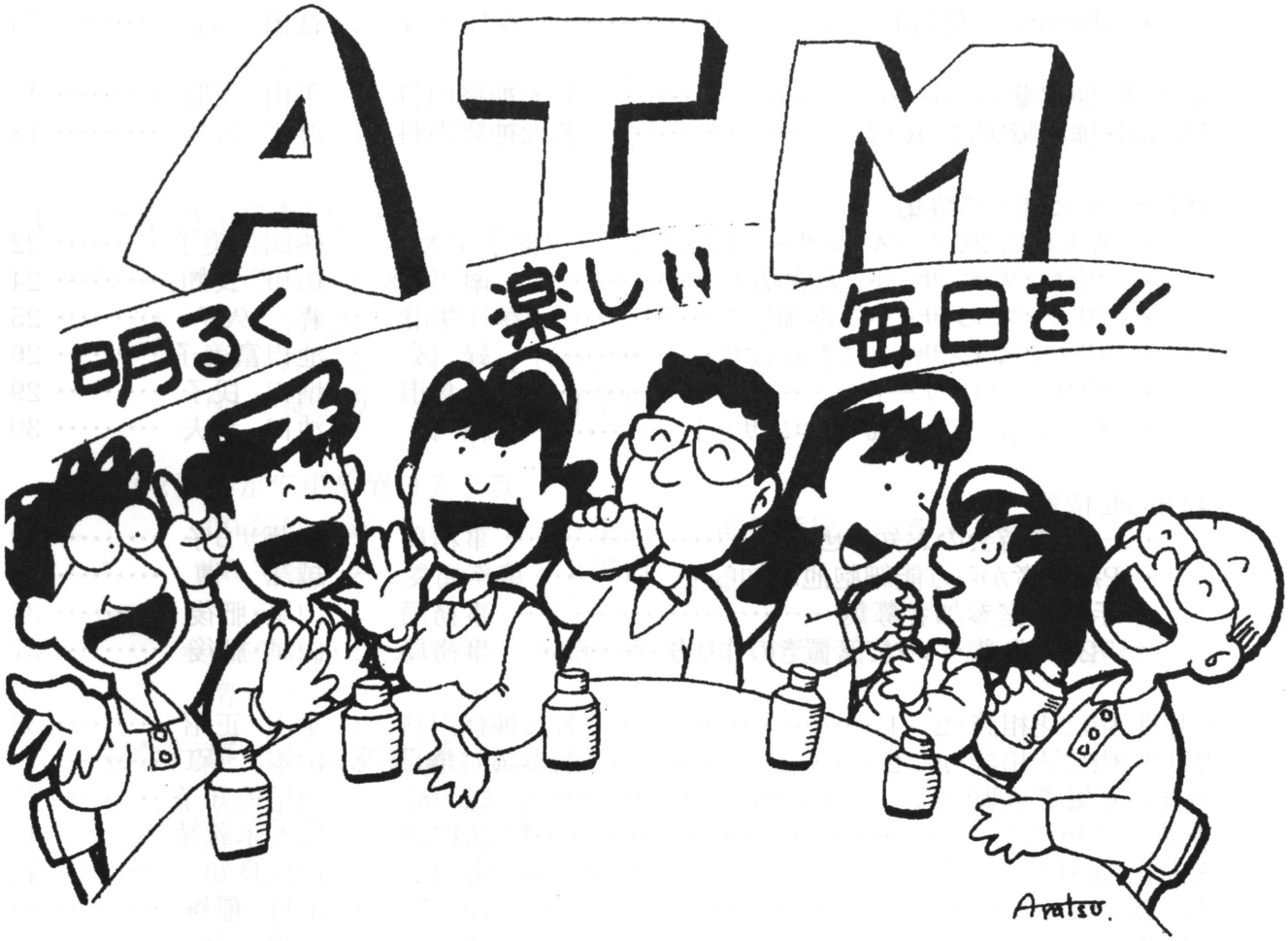
１９７１年　８月７日第３種郵便物認可　毎月１・６の日発行
２００９年１月２６日発行　増刊通巻６４７７号

SSKA　全国パーキンソン病友の会会報
愛知県版　４３号



友の会の皆様　明けまして　おめでとう　ございます
昨年の12月は、パーキンソン病をテーマにした医療講演会が、そして友の会会員の手による「Xマスコンサート」が開かれました。何れも多くの人達に支えられているのだと感じられる行事でした。今年も、多くの行事を予定していますので、元気に外へ飛び出して下さい！

〈2～3月度行事予定〉　　詳細は当稿の案内をご覧下さい

・音楽療法	：	2月17日(火)、3月17日(火)	(申込不要)	22頁
・ひまわりの会	：	2月19日(木)、3月19日(木)	(申込不要)	35頁
・一日交遊会	：	2月27日(金)	(申込必要です)	32頁

〈 目　次 〉

				頁
年頭に当たり	会 長	：	大道　忠弘	3
市民公開講座特集				
(1)「知っていますか？パーキンソン病」	主 催	：	中日新聞社	4
(2)はじめに	名大神経内科教授	：	祖父江　元	5
(3)パーキンソン病と言われたら	本町クリニック院長	：	服部　達哉	6
(4)パーキンソン病の薬について	名大神経内科	：	平山　正昭	7
(5)パーキンソン病と長く付き合う方法	名大神経内科	：	渡辺　宏久	8
(6)質疑応答とDVDプレゼントのお知らせ	……		……	9
・市民公開講座に参加して	東海市	：	肥後ひとみ	10
・市民公開講座の舞台裏と感動	緑 区	：	池田　幸夫	12
・諦めないで待ちましょう	春日井市	：	益田　緑	14
薬の話(便秘薬)	名大神経内科	：	平山　正昭	15
第六回・排尿障害について	名大神経内科	：	渡辺　宏久	18
クリスマスコンサート特集				
・名大病院クリスマスコンサートを終えて	中部学院大学	：	鵜飼久美子	22
・クリスマスコンサート、大成功！	南 区	：	山田　良知	24
・クリスマスコンサートに参加して	春日井市	：	森　久子	25
・クリスマスコンサートに参加して	緑 区	：	池田富美子	26
・クリスマスコンサート	岩倉市	：	増田　民子	29
・多くの人に支えられて、コンサート	緑 区	：	池田　幸夫	30
お知らせ情報				
・一日交遊会のお知らせ	事務局	：	後藤サヨ子	32
・P病患者から万能細胞他お知らせ	事務局長	：	越澤　博	34
・手芸教室参加者募集	事務局	：	山尾・肥後	35
2月：牛乳パックで箸置きの作り方	事務局	：	山尾・肥後	37
2月度困りごと相談・2－1	名大神経内科	：	平山　正昭	38
2月度困りごと相談・2－2	前参議院議員	：	山本　保	40
今年も元気で頑張りたい	緑 区	：	山尾佐知子	41
新茶のひとりごと	蒲郡市	：	佐々木義祐	42
それからの私	南 区	：	山田良知	44
お 導 き	緑 区	：	木村　郁雄	45
賀 状	緑 区	：	越澤　博	47
文芸サロン　・短 歌	守山区	：	松本　紘一	48
〃　・春の訪れ	稲沢市	：	今枝　清美	49
〃　・痛みのものさし	稲沢市	：	今枝　清美	50
竹頭木屑	事務局長	：	越澤　博	51

年頭に当たり

会長　**大道　忠弘**

謹んで新春のお喜びを申し上げます

思い返せば昨年は我が愛知県支部にとりましては大きな節目の年でした。然し、皆さんのご協力により克服できましたことは大変喜ばしいことです。
そして格言にもありますように「節から芽が出る」、また「節の無い竹や木は弱い」と言われますように、この経験は今後の支部の発展の大きな財産となることでしょう。

一方外部に目を向けますと、アメリカを中心とした世界同一不況と言われ、日本国内においても大手企業が軒並みに売り上げの下方修正や人員の整理に入るという現象が出てきております。
これらが政府の税収のマイナス要因となり、医療や福祉予算に影響が出ないよう祈る気持ちで胸が痛みます。

今年も感謝の気持ちをベースに　ＡＴＭ　で頑張りましょう

私に頂いた年賀状から
- 夢に向かって一歩一歩
- 出来ることをこつこつと牛歩の歩みで確実に

記

１．予算関係の報告

政府原案が次の通り決まりました

（１）難治性疾患克服研究事業
09年度予算　・・・１００億円　（前年度比　＋７６億円）
08年度予算　・・・　２４億円

（２）特定疾患治療研究予算
09年度予算　・・・２２９億円　（前年度比　－５３億円＊）
08年度予算　・・・２８２億円

＊－53億円については、高額医療制度の利用を行うので患者の負担は増えない。

２．主な行事（全支部共通）

（１）パーキンソンデー国会請願
平成２１年4月14日（火）
（２）第33回　総会・大会
平成21年6月１８日（木）～19日（金）
富山市において　（富山支部主催）

以上

〔1〕市民公開講座・「知っていますか？　パーキンソン病」

昨年１２月７日に開催されました。講演の趣旨を下記にまとめてお知らせします。
講演内容を記録したＤＶＤのプレゼントが有りますので、〔6〕をご覧下さい。

日　時　**平成20年12月7日（日）13:00～16:00**

会　場　**吹上ホール7Fメインホール**（名古屋市中小企業振興会館）
〒464-0856　名古屋市千種区吹上2-6-3

プログラム

12:30　開場
13:00　開演
13:05　開会の挨拶
「市民公開講座開催にあたって･･･パーキンソン病とは?」
祖父江 元 教授　名古屋大学神経内科学
13:25　講演
「パーキンソン病と言われたら」
服部 達哉氏　本町クリニック服部神経内科 院長
「パーキンソン病のくすりについて」
平山 正昭氏　名古屋大学神経内科学
「パーキンソン病と長く付き合う方法」
渡辺 宏久氏　名古屋大学神経内科学
14:55　休憩
15:05　応募者によるQ&Aコーナー
16:00　終了

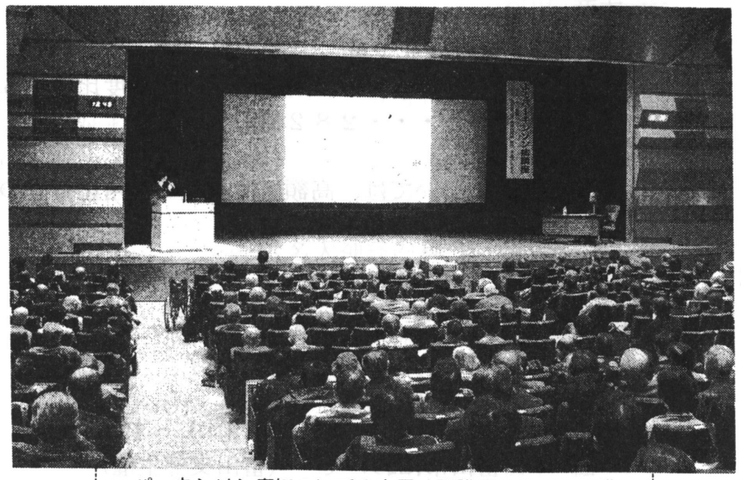
申込み方法

●はがきかファクスで郵便番号、住所、名前、性別、電話番号と同伴参加者がいる場合はその人数、講師への質問を明記のうえ下記宛てに。

〒460-8511（住所不要）
中日新聞社広告局 広告2部「パーキンソン病 市民公開講座」係
FAX.052(201)9752　11月20日(木)必着
※定員430人（応募者多数の場合は抽選となります）
※質問がある方は応募はがきにご記入ください。　※個人情報は聴講券の発送にのみ使用します。

主　催　中日新聞社
後　援　愛知県医師会、名古屋市医師会、名古屋大学
協　賛　日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

お問合せ：中日新聞広告局広告2部　TEL.052(221)0688



パーキンソン病についての市民公開講座を熱心に聴講する参加者の皆さん＝名古屋市千種区の吹上ホールで

〔注〕
ここに掲載する記事は、昨年の１０月から１２月に亘って中日新聞夕刊に掲載された記事を、中日新聞社の許可を得て掲載しました。

〔2〕名大・祖父江教授からご挨拶を頂きました

はじめに

平成 20 年 12 月 7 日に吹上ホールで市民公開講座「知っていますか？パーキンソン病」を開催いたしました。

この公開講座には、予想を遥かに上回る 1000 名を超える方々に応募していただきました。これまで講演要旨の中日新聞への掲載、講演内容をおさめた DVD の配布などを行っておりますが、会場の規模の都合で参加できなかった皆様にはこの場をお借りしてお詫びいたします。

講演会当日は約 500 名の参加者で会場は満員となり、皆様、大変熱心に耳を傾けてくださいました。我々といたしましても、このような会を定期的に行っていく必要性を痛感しております。

さて、今回の友の会の会報では、3 名の演者の講演内容のエッセンスが記載されています。当日お越しになった方は、当日の記憶を蘇らせていただく資料として、またお越しいただけなかった方も、本資料を日々の生活の参考にしていただければと思います。

今年も様々な情報を名古屋大学より発信していく予定ですので、ご要望がありましたら、当教室の平山や渡辺に伝えてください。皆様のより良い生活と、友の会の益々のご発展を祈念しております。

名古屋大学神経内科教授

祖父江　元

〔3〕本町クリニック・服部達哉院長の講演趣旨（１０月３０日と１２月２７日に掲載）

市民公開講座
「知っていますか？パーキンソン病」

「パーキンソン病と言われたら」

本町クリニック服部神経内科 院長　服部 達哉氏 講演主旨

パーキンソン病をご存じですか。手足がこわばる、ふるえる、動かしにくくなる、足を引きずるといった症状が、徐々に起こってくる病気です。猫背になった、転びやすくなったという方の中にもこの病気の方がいらっしゃいます。

パーキンソン病は、神経の病気の中で脳卒中、アルツハイマー病に次いで多く、まじめで几帳面な方がかかりやすいといわれています。決して珍しい病気ではなく、日本では約14万人以上と推定されています。最近では、夜間の寝言や、睡眠中の大声や異常行動、匂いがわからなくなる、足がむずむずしてじっとしていられないといった症状が先に出ることがあるという指摘があり、早期発見の重要な手がかりとなっています。CTやMRI、脳波などの検査では異常がなく、症状と薬の効き具合が診断の手がかりとなります。こわばりを「しびれる」と表現される方や、「痛み」を強く訴えられる方、頭が「すっきりしない」といわれる方もおられ、医師もとまどうことがあります。どんな「しびれ」なのか、どんな「痛み」なのか、どう「すっきりしない」のか、細かく医師へ伝えていただくことが、早い診断につながります。

早期診断が重要視されるようになってきたのは、病気の進行を抑える作用が期待できる薬剤が見つかってきたからです。パーキンソン病には多くの薬があり、治療により症状は驚くほど良くなることが期待できます。よく似た症状の別の病気である場合は薬が効きにくいことがありますが、治療法は共通です。

早く発見して早く治療を始め、できるだけ長く充実した人生を送っていただくこと。それが私たち医療に携わる者の願いです。今回の講演会では、できるだけ多くの方々にご参加いただき、この病気について一緒に考える機会を持つことができればと考えております。

パーキンソン病と言われたら
服部達哉氏（本町クリニック服部神経内科院長）

神経内科を早期受診

現在、パーキンソン病の患者さんは人口十万人に約百五十人。勤勉で几帳面、責任感が強く、完璧主義、心配性などの方がなりやすいと言われています。パーキンソン病は、ドーパミンを伝達物質とする神経が減って起こる病気で、手足のふるえ（振戦）、筋肉のこわばり（筋固縮）、動きが緩慢になる（無動）、体のバランスがとりづらい（姿勢反射障害）という四つの症状の組み合わせで診断します。早期症状として便秘や嗅覚障害、睡眠中に大声をあげたり暴れるレム睡眠行動障害が注目されています。CTやMRIは、パーキンソン病以外の病気を否定するために行われます。早期に治療を始めると、病気が重くなりにくいので、早期に神経内科を受診し、治療を早く始めることが重要です。かかりつけ医を持ち、よく相談して病気への理解を深めて下さい。してはいけないことはありませんが、悪化させないためには、寝たきりのきっかけとなる転倒・骨折に注意が必要です。無理も禁物です。無駄な考えを捨て、踏ん切りをつけ、宿題を作らないようにして下さい。また音楽は、喜びの感覚や疲労を改善する効果が期待できます。夢を持ち続ける暮らしを心がけていただきたいと思います。

〔4〕名大神経内科・平山　正昭先生の講演趣旨（１１月８日と１２月２７日に掲載）

市民公開講座　「知っていますか？パーキンソン病」

「パーキンソン病のくすりについて」

名古屋大学神経内科学　平山 正昭氏 講演主旨

パーキンソン病は40歳以後、50～60歳代に症状が出始め、振戦（ふるえ）、筋強剛（体が硬くなる）、動作緩慢（ゆっくりしか動けない）、姿勢反射障害（倒れやすい）などの症状がみられます。日本では、有病率は、約1,000人に1人の病気とされています。しかし、高齢になるほど多くなる病気ですから、70歳以上では、100人に1人近くの方が罹患します。

パーキンソン病は、非常に診断が難しい病気です。脳梗塞や脳出血では、CTやMRIで異常が検出できます。糖尿病では、血液検査で血糖を図ることによって診断できます。しかし、パーキンソン病は画像や血液検査に異常が見られません。多発性の脳梗塞や薬剤、まれな神経変性の病気などのパーキンソン病に似ていてもパーキンソン病でないパーキンソン症候群という一群の疾患があります。治療に際しては、しっかりと診断をしたうえで行うことが必要です。

この病気は、治療法がなかった時代には、発病して5年間で半数の方が寝たきりになるとされていましたが、1960年代後半にL-DOPA治療が、出現したことによって発病15年での死亡率は、健康な人と変わりがなくなっています。治療法が見つかりましたが、長期使用による問題点が指摘されるようになりました。長期にL-DOPAを使うことによって体が勝手に動いてしまったり、薬の効果が最初に比べて効かなくなったり、長く効かなくなったりします。また、L-DOPAは脳内でドパミンという物質になりますが、薬が多くなるとその副作用で、幻覚や眠気が出たりします。このような症状を少なくするため、ドパミンアゴニスト、COMT阻害薬などの新しい薬が開発されています。しかし、薬の効果に対して、非常に個人差が大きいのもパーキンソン病の特徴です。

また、パーキンソン病は、体の動きが悪くなるだけでなく、頻尿や便秘などの自律神経症状や睡眠障害、嗅覚障害、抑うつなどが合併します。抑うつ症状が先に発症したために最初に精神科にかかってから、神経内科に紹介されることもあります。個々人の患者さんに合わせて、薬剤を選択することが重要になっており、専門医と相談の上納得して治療を行うことが大切です。

パーキンソン病のくすりについて
平山正昭氏（名古屋大学神経内科学）

病状に合った治療薬

かつてパーキンソン病は、発病して五年間で半数が寝たきりになるとされていました。しかし一九六〇年代後半、ドーパミンを補充するL－DOPA療法が開始されて以来、発病十五年での死亡率は健康な人と変わらなくなってきました。その後も治療薬は増え続け、今ではこれほど治療薬の多い神経疾患はありません。

一方、L－DOPAを長期に使用すると、体が勝手に動いてしまうジスキネジアや、運動合併症と呼ばれる症状が出てくることが分かってきました。こんな症状を軽減するために使われるのがドパミンアゴニストです。しかしドパミンアゴニストも、麦角系の薬には心臓弁膜症や肺線維症、非麦角系の薬には眠気などの副作用があります。しかもパーキンソン病は、薬の効果の個人差が非常に大きい疾患です。

パーキンソン病の治療にあたっては、患者さんの年齢、仕事の有無など社会的背景を踏まえ、症状に合わせて治療薬を組み合わせる必要があります。必ず専門医と相談のうえ、納得して治療を受けることが大切です。

〔5〕名大神経内科・渡辺宏久先生の講演趣旨（１１月１４日と１２月２７日に掲載）

市民公開講座

「知っていますか？パーキンソン病」

「パーキンソン病と長く付き合う方法」

名古屋大学神経内科学　渡辺 宏久氏 講演主旨

パーキンソン病では薬剤の開発に伴い、長期間お元気で過ごす方も増えてきました。レボドパやドパミン作動薬をはじめとするパーキンソン病の薬は、手のふるえや体の固さをはじめとする「動き」を主に改善し、特に発症早期には比較的良く効く方を数多く経験します。

パーキンソン病の患者さんの中には、初期から治療効果の良い状態が長く持続される患者さんもみえますが、経過とともに、薬剤の効果が減ったり、薬剤の副作用が出てきたり、気分的に滅入ったり、尿の回数や立ちくらみが増えたりと、動き以外の「非運動機能」症状が出てくる方も少なくないことが分かってきています。

ここ数年、以前は十分に取り上げられなかった非運動機能の症状に対する研究が進み、この「非運動機能」と呼ばれている様々な症状は、「運動」にかかわる症状よりも患者さんの生活の質の低下と密接に関連していることが分かってきました。

「非運動機能」症状への治療に画一的なものはなく、症状に応じて様々な薬を組み合わせることが良い場合、一つの薬剤が全体を良くする場合、手術を受けていただくことが良い場合、あえて現状の治療を維持しながら日常生活の工夫を続けることが良い場合など、「運動」に伴う症状に比べて、より個別の対応が必要になってきます。

今回のお話では、名古屋大学で行っている研究結果の一部も御紹介しながら、「非運動機能」症状と上手に対応していただくためにはどうしたら良いかを皆様と一緒に考え、患者さんやご家族がパーキンソン病と長く上手に付き合っていくための一助としていただければと思っています。

パーキンソン病と長く付き合う方法

渡辺宏久氏（名古屋大学神経内科学）

進行に応じた対応を

近年では、治療薬の発達により、長期間元気で過ごせる患者さんが増えてきました。しかし経過とともに、薬剤の効果が減少し、副作用の出現する方や、頻尿や便秘などの自律神経症状や睡眠障害、幻覚や抑うつ、嚥下障害などを呈する方も多いことが分かってきました。以前はあまり注目されなかったこれら非運動機能の症状は、運動機能の症状より患者さんのＱＯＬの低下に影響を及ぼすと言われています。しかもこれらは、運動機能の症状より個別の対応が必要になってきます。

パーキンソン病の場合、病状や進行を把握する方法は問診や神経学的所見であり、基本的な臨床的指標として「ヤールの重症度分類」があります。パーキンソン病と長く上手に付き合うには、このような病気の進行の状況に応じた適切な対応を知ることが大切です。

名古屋大学では定期的な短期入院を含めて、患者さん個々の多様な症状をチェックし、病状に合わせて適切な個別治療を提供できる体制も整え始めています。患者さんがパーキンソン病と上手に付き合い、明るく楽しい毎日が過ごせるよう協力していきたいと思います。

〔6〕質疑応答の内容と講演記録・ＤＶＤプレゼントの案内　（１２月２７日に掲載）

市民公開講座

大切な いのち を守る 知って

Q&A

Q　パーキンソン症候群と認知症との関係は？

渡辺　パーキンソン症候群の中で、認知症の症状のある「レビー小体型認知症」というものがあります。またパーキンソン病にアルツハイマー病が合併する場合もあります。

Q　どこを受診すればいいか？

服部　普段相談できる神経内科に詳しいかかりつけ医を持つことが大切です。大学病院、大病院へは紹介状を貰って受診してください。名古屋大学付属病院は患者さんの希望に沿った紹介ができます。複数の主治医を持つことも良いと思います。

Q　サプリメントは有効か？

複数の主治医を／遺伝要素は少数

平山　サプリメントが有効なら医薬品になっているはず。一部には治験をしているものもあり、すべてを否定はしないが、高額なサプリメントを買うなら他のことに使った方が良いと思います。

Q　遺伝的な要素はあるか？

服部　遺伝性のタイプもありますが、頻度は通常のパーキンソン病の10％以下です。遺伝性のものはパーキンソン症候群とする考え方もあります。

Q　特効薬はできるか？

平山　いつになるかはわからないが、必ず出ると信じています。昭和時代に不治の病だった結核が今はそうではありませんが、医学の進歩は日進月歩です。

Q　手術について知りたい？

渡辺　手術は適応が限られています。適応例であっても、プラス面とマイナス面のあることも分かってきています。特に運動合併症に対する治療の選択肢のひとつです。

その他、夜の頻尿や幻覚など、非運動機能の症状に関する質問が多く寄せられました。これらすべての質問に共通した答えとして、司会を務めた祖父江元教授より、神経内科の専門医を主治医として持つことの大切さが改めて強調されました。

プレゼント

本セミナーのDVDを希望者にプレゼントします。
ご希望の方は郵便ハガキに、住所、氏名、年齢を記入し、〒460-8511（住所不要）　中日新聞広告局　広告二部「パーキンソン病DVDプレゼント」係まで。締め切りは12月31日必着。なお応募者多数の場合は抽選とさせて頂きます。当選は賞品の発送をもってかえさせて頂きます。

企画・制作　中日新聞広告局

→ プレゼントのお知らせ

ベーリンガーインゲルハイム社が本講演のＤＶＤを、友の会に寄贈して下さいました。
そのＤＶＤを希望者にプレゼント（無料）します。
下記宛にハガキで、郵便番号・住所・氏名を明記の上、申込み下さい

↓

〒４５８－０８４７
名古屋市緑区浦里
１－６８－５０８
越澤　博

市民公開講座に参加して

東海市　肥後　ひとみ

１２月７日（日）１２月初旬にしては寒い中、東海市市会議員で当会の顧問 神野久美子さんとご一緒させて頂きました。
本来ならば、故丹羽会長と駅で待ち合わせをしてご一緒していただろうと思うと少し寂しい気持ちになりました。友の会の行事のある度に、この寂しさを感じながら一人で行動しなければいけないのですね。それにしても早すぎましたね・・・

定員を大幅に超える応募があり、抽選で選ばれた幸運な方々で会場の吹上ホールはほとんど空席がないほどいっぱいでした。
その中、入場される方たちに友の会の入会案内と会報を一人一人お渡し、入会の勧誘をしました。講師の先生方も友の会の存在を強調していただきました。たくさんの方が入会されると良いのですが。
それにしてもパーキンソン病は皆さん関心があるのか、それとも患者が増えているのでしょうか？　会員のほとんどの方が落選されていましたから。
祖父江教授が、高齢化社会になっていくに連れてパーキンソン病は増えるだろうと言われていましたが、確実に増えていると思います。

講演は名古屋大学神経内科 祖父江　元教授を司会に、本町クリニック服部神経内科服部達哉院長・名古屋大学神経内科　平山正昭医師・名古屋大学神経内科　渡辺宏久医師で行われました。

祖父江教授が「パーキンソン病とは？」、服部医師が「パーキンソン病と言われたら」、平山医師が「パーキンソン病のくすりについて」、渡辺医師が「パーキンソン病と長く付き合う方法」について講演して頂きました。
四名どなたも基礎的な事を話され、誰にでも解る内容だったと思います。
その中で気になった点だけ書きます。

現在患者の割合は 10 万人に約 150 人、65 歳以上だと 100 人に 1 人が罹っている。
パーキンソン病は薬の種類が多く、他の神経難病に比べたら恵まれていると思います。
製薬会社も薬の開発を積極的に行なっているから、難病の中でも運がよい。
ドーパミンアゴニストの中でも、薬を飲んで眠たくなり、運転中に居眠りして交通事故を起こした例が何件かあったそうです。私も飲んでいますが確かに眠くなります。
運転するときは音楽をかけるなり、窓を少し開けるなり何らかの予防をした方がいいのではないでしょうか、起こしてからでは遅いですから。

この病気、鬱になりやすいですよね、ですから何か目標を持って生活しなさいと言われていました。私の今の目標は娘の孫を抱くこと。それまでは手を何とか動かせるようにしとかなければ、落としたら大変ですもんね（笑）

ほとんどの方が便秘になる。その対処法は規則正しい食生活・食事の量に注意・水分を十分に取る・食物繊維を多く取る（豆・芋はダメ）・適量の油・酸味、香辛料で刺激する。
初期症状として嗅覚障害があり、ほとんどの人が自覚していない。

レム睡眠行動障害も起こる、夢を見ているときに筋肉が弛緩せず勝手に動く
長期になるとジスキネジアが出てくる。このジスキネジアは難しい問題ですね、出ると仕事が出来ない人もいるし、少々動けなくてもジスキネジアは嫌だと言う人もいるし、私の場合は動ける方を取りました。ですから薬が良く効いている時は体が勝手に動いて、見た目には悪いですが動けないよりはいいかなと思って傍目は気にしません。

パーキンソン病は一人一人病状が違います。主治医に自分の症状をきちんと報告するようにしましょう。
現在の薬は、減少したドパミンを補充する薬とその補助薬ですが、減少したなら減少しないようにすればよいと言う考え方で研究中との事、近い将来新しい薬が出来るだろうと祖父江教授が言われていました。皆さん希望を持っていましょう。

それにはＡ・Ｔ・Ｍ　明るく・楽しい・毎日を送りましょう！！

市民公開講座での舞台裏と感動

緑区　**池田幸夫**

昨年の12月7日に吹上ホールで中日新聞主催による医療講演会が開かれました。
演題は「**知っていますか？　パーキンソン病**」です。
講師陣は当友の会が日頃からお世話になっている、名大神経内科・祖父江教授、友の会顧問の平山正昭先生と渡辺宏久先生並びに友の会顧問の本町クリニック・服部達哉院長というそうそうたる陣容です。

10月末から3度にわたり中日新聞夕刊に大々的に掲載告示されました。我々が直接関係する病気についての講演であること、講師陣が前述の先生方であることから早々に申込みをしました。430名の大ホールで開かれることから、空席が出たらどうしようと心配になり、依頼を受けた方達の分までどんどん申請しました。

しかし、11月末になっても聴講券が届きません。他の人に聞いても来て無いというので、心配になって中日新聞の鈴木宏英さんに問合せをしたところ、“あなたは落選です、落選した方たちにはこれから連絡します”との返事でした。鈴木さん曰く、“申込みの受付を始めたところ、予想をはるかに超える　1000名以上の申込みがあり、止む無く抽選にさせて貰いました”というのが返事でした。

しかし、落選したでは済みません。どうするかと思案中に、越澤事務長の尽力で当日会場に　「友の会入会受付」の机が出せる、合間に立席覚悟で聴講できるということになりました。落選した3人でその受付を担当することになったのですが、このときにこれから述べる感動のシーンに遭遇したのです。
友の会を手伝っていればこそ、こういう感動にめぐり会えるのです。

その1は、受付が始まって暫くすると、受付を担当しているベーリンガーインゲルハイム社の聴講受付には行かず、直接友の会の机に来られ、
“実は聴講券がありません、でも私は是非聴きたい！　何とかなりませんか？”
と真剣な顔で言われます。そこまで言われる熱意に対して“券が無いと駄目です！”なんてとても言えません。
会場内を見るとまだまだ空席が目立つので、何とかなるのではと思い、独断で“一寸ここでお待ち下さい”と言って待機して貰いました。
そうこうしている内に、たちまち10名程度になり、これはヤバイぞ！　と思っているところに　駄目押しの事態が起きました。

驚きのその2は　つかつかと来られた長身の紳士が　“私は聴講券を持っていません。でも勉強のために、是非とも聴かせて下さい”と言われます。事情をお聞きすると　“C区でHクリニックを開業していますが、患者さんの中にパーキンソン病の方がおられるので、新しい知識の勉強をしたいのです”と言われます。
先生と呼ばれるお医者さんでも、我々患者のためにここまでして下さるのかと思うと、嬉しくなってきました。

無券の人数は増えるばかりです。　意を決して、中日新聞・鈴木さんの所に行き、その事情を話しましたら、即座に“では、入って貰いましょう”と決断されました。ベーリンガーインゲルハイム社の上田さんに話され、こちらも快諾されました。
席に戻りOKの旨をお伝えすると、間髪入れず受付に向かわれた時の安堵のお顔と嬉しそうなお顔は忘れることができません。

驚きの3は、受付担当の方達でした。“聴講券は無い”という方に一瞬戸惑いを見せていましたが、すぐさま平常の顔に戻り一言も苦情めいた事は言われずに皆に資料の配布をされました。さすが営業のプロだと感じ入りました。定員４３０名を超える約５００名の聴講者で１人も立席が出なかったのは、製薬会社の担当者が予備の椅子を全て後部に配置した為で、これまた手際の良さ、早やさに感服しました。

人を動かすのは「熱意」だと、痛感しました。こういう嬉しい話やお顔が見られるのですから、友の会の手伝いも捨てたものではありませんよ。
私もいつの日か、相手に感動を与えられるような人になりたいです。

肝心の講演の方ですが、合間、合間に中に入り聴講させて貰いました。５００名を超える満席の中で、祖父江教授の司会で淡々と進んでいきます。新鮮な印象を受けたのが最後の質儀応答でした。長い時間をとって頂き、聴講者から次々に出る質問を祖父江教授が御三方の先生に振り分けられて回答を頂くという図式で、新鮮で丁寧で非常に分かり易かったのではないでしょうか。

講演が終わり、帰路につく方達からは“有難うございました”の声が次々に寄せられました。お陰様で気持ちの充実した、さわやかな一日でした。
痛切に感じた事は、「我々は多くの方に助けられている」　ということ、そして「熱意が人を動かす」ということを改めて認識させられました。

世の中、素晴らしい！
私たちは多くの人に囲まれていますよ！

諦めないで待ちましょう

春日井市　**益田 緑**

12月7日、 吹上ホールで開催された市民公開講座「知っていますか？パーキンソン病」を聴講しました。
その日　電車の中には、公開講座に行かれるらしい人がたくさんみえました。みなさん　お互いに不自由をこらえてなにか良い治療法がないか、新しい情報が聞けるかもしれないと出かけてこられたのでしょう。私も動けなくなる事が多くなってきたので、この頃では１人で出かける事はないのですが、折角券が当たったので、思い切って１人で出かけてみたのです。

まずはここまで無事に来られた事にほっとしました、行きはよいよい帰りは怖いになるかもしれないけれど、調子が悪くなりそうだったら次の薬を早めに飲めばいいからと決めると、会場までの公園のある通りが付き添いなしで歩けた事がとても嬉しいのです。公開講座は５００人のところへ１０００人ほど申し込みがあったとかで満席です。　大勢のボランティアの方にてきぱきと案内されて、盛りだくさんのお話を聞くことが出来ました。

特に印象深かったのは、なんでも話せる良い神経内科医に出会うこと、自分に合う薬を処方して頂いて上手に使うこと、たえず後悔をしたり心配ばかりしているような生活を止める事（これなど私に言われたような気がしました）。
又お芋や豆は繊維が多すぎて便秘には食べ過ぎるとかえって悪いとか、なんでも完璧を求めないこと、元気だった過去にこだわらない事。えらいとついサプリメントにでも頼りたくなるが、高いそういうものよりもお水でもたくさん飲んだ方がいいぐらいということなどです。

そして、パーキンソン病で１５万人もの困っている人がいるのだから、製薬会社の方でも研究機関のほうも力を入れて研究が進められる。明日というわけにはいかないけれど、きっと治る日が来ると信じて下さい、とどの先生方も力強く言われた事で、頑張れそうな気になりました。
どきどきしながら出かけましたが、なんとなく希望が持てそうな気分になって、何事もなく帰れて嬉しい１日でした。
動けなくて泣きたい時もありますが、社会や家族に助けて貰ってばかりも辛いですが明日を信じて諦めないで待ちましょう。
やはり　明るく、楽しい、毎日を　送りましょう。

薬の話（便秘薬）

名古屋大学神経内科　　平山正昭

これまでは、パーキンソン病そのものの治療薬について書いてきましたので、本日は、パーキンソン病の非運動症状で一番多い便秘についてお話しましょう。

なぜ、便秘について書くかというと、最近のニュースですが、カマという便秘に使う薬で高マグネシウム血症によって死亡した例があると報道されて以来、この薬を飲んで大丈夫でしょうか？という質問が多くなったからです。人によってはやめてしまって便秘になってしまった人もいます。安易に報道してもらうと実際には患者さんの害になるという典型的な例です。

酸化マグネシウムというのは、多くの便秘薬に入っています。酸化マグネシウムが胃酸の塩酸と化合して塩化マグネシウムになります。
腸内に入ると、腸内の重炭酸ナトリウムと反応して重炭酸マグネシウムになります。この物質は、水を保持しようとするので、便の中にあると便が軟らかくなって便が出やすくなるのです。確かに、長期に大量服用し、さらに腎不全も合併していれば、高マグネシウム血症が起きるかもしれませんが、非常にまれです。
ちゃんと報道するのならば、たとえば高齢者で腎不全がある方は、便秘薬を飲んでいるときに気をつけてくださいとすればいいと思うのですが、報道関係は、とにかくセンセーショナルにして報道する癖のようですから、報道関係の方にもう少し倫理観を持っていただくか、勉強していただかないといけないでしょう。

さて以前も書いたように便秘の人は、その後、パーキンソン病になりやすいという統計がありました。そこで、便秘もパーキンソン病の病因の一つではないかと考えられたこともありました。つまり、便秘でおなかの中に余分なものがあると、便の中の有害物質も吸収してしまってパーキンソン病になりやすいのではないかというのです。
今までにも、パーキンソン病の原因として、中毒説というのがあります。農薬や重金属などはパーキンソン病に関連があるのではないかと言うことがわかっています。
しかし、どうも便中にそれほど中毒物質があるとは考えにくいところもあります。現在、パーキンソン病では、運動症状よりも非運動症状が先に見られることが、明らかになりました。

たとえば、夢を見ている時に、急に声を出したり、無意識に手足を動かしたりするREM睡眠行動異常の患者さんが、その後パーキンソン病になりやすいことが知られています。
病理学の研究でも、腸に病気の初めのころから、Lewy 病変が見られることが分かってきています。したがって、便秘がパーキンソン病を引き起こすのではなく、便秘が病気の前駆症状である可能性の方が考えやすいのではないかと現在では思われています。

ただでさえパーキンソン病の人は便秘になりやすいのですが、残念ながらパーキンソン病の治療薬にはほとんど腸の動きを悪くする作用があります。

特に、アーテンなどの抗コリン剤は特に副作用として便秘を起こしてしやすいです。また、L-dopa やドパミンアゴニストも腸管に存在するドパミン受容体を刺激して、アセチルコリンという腸の動きを抑制する物質を出させることで便秘を引き起こします。
したがって、軽い便秘だったのが、L-dopa を飲んだら、便秘で困るようになったということが時々あります。患者さんとしては体の動きがいい方を好まれることが多いので、残念ながら便秘薬と併用するようになることがあります。

では、便秘薬には、どういった種類があるでしょう。しかし、その前に、便秘には、どんな種類の便秘があるかを知ってもらった方がいいと思います。

便秘の種類ですが、大きく分けて**弛緩性便秘**と**攣縮性便秘**に分けられます。
弛緩性便秘は、慢性的に便を我慢したり、直腸の排便反射が低下しているとだんだん腸管の緊張が低下したりして起こります。
腸の蠕動運動が低下して、便が長時間腸管の中にあると、次第に便の中の水分が少なくなって便が堅くなり便が出にくくなります。したがって、便は太くて堅くなります。

一方、攣縮性便秘というのは、腸管の緊張が強すぎて腸管がけいれん性に収縮し、便の輸送が傷害されることです。これは、過敏性腸症候群などでみられる便秘で、ウサギの便のようにころころした便と軟便が混じります。腹痛や腹部の不快感を伴うことがあります。

では、パーキンソン病の患者さんでどちらが多いかというと、これをはっきりと分けて報告した論文はないと思いますが、私の印象ではどちらかというと弛緩性の便秘の方が多い印象です。
したがって、便秘薬としては、パントシンと酸化マグネシウム(カマ)やプルセニド、ラキソベロンと言った処方が多いと思います。

パントシンやラキソベロンとプルセニドは腸の動きを刺激する薬です。そして、カマは便を軟らかくする薬です。また、直腸までは行っているけど、なかなか出ないときにはレシカルボン坐薬やテレミンソフトなどの腸から便が出るのをなめらかにする薬が用いられることがあります。
一方、攣縮性の便秘の場合には、過敏性腸症候群の治療に準じます。コロネルといった便に混じって便自身に水分を保たせる薬やセレキノンやガスモチンのように腸全体の消化管運動を調節する薬を用いることがあります。

あまり、刺激のある便秘薬は使わないようにします。パーキンソン病の患者さんでは、逆流性食道炎も多いと言われていていますし、食事が胃の中から腸に運ばれる時間も長くなっていると言われています。したがって、後者の消化管運動を調節する薬は、胃の運動も刺激するためパーキンソン病の患者さんで胃もたれがある人には一石二鳥の効果があると思います。吐き気を直す薬には、パーキンソン症状を悪化させるものがありますが、その点この薬には、そういった副作用はないので安心して使っています。

治療として困るのは、弛緩性便秘の方よりも攣縮性便秘の方の方が多いと思います。もちろん、パーキンソン病の方で一度、麻痺性イレウスになってしまった方がいるので一概には言えませんが、便秘の症状としておなかが痛くなるのはどちらかというと攣縮性便秘ですので、訴えの多さでは攣縮性便秘になります。
また、最近便秘などの非運動症状にもwearing-offという症状の変動があるのではないかということが問題になってきています。したがって、普段はいいのに急に調子が悪くなると言うことが起きる可能性があります。この意味では、薬だけに頼らない治療法も考えないといけません。

薬以外にほかに便秘の治療法はあるかというと、よく言われることですが、根菜類などの食物繊維の多い食事をとることと運動です。
食物繊維自身には、何も栄養になる物質はありませんが、腸の中で便の量を増やし、腸の表面を掃除する作用もあります。
よく便が出やすくするために、バナナを食べると言いますがこれもバナナに食物繊維が多いからです。また、おなかの動きが悪い人には、牛乳も腸の動きを活発にします。
これは、日本人には乳糖不対症の人が多く、そのために牛乳を飲むと下痢しやすいのを逆手にとった方法です。

PS　この前麻生首相がアニメ好きなので、好感が持てるなど書いてしまいましたが、アニメ好きにあんな常識外れはいません。書いてしまった私は反省しています。
うちの子供もアニメや漫画ばかり読んでいますが、麻生首相の発言を聞いていて、あれは正しいアニメファンじゃない。本当のアニメファンなら知っていることを話してない。きっと話題作りだと叫んでいます。アニメファンはだまされないと変なところで怒っています。100 年に一度の経済危機だと言いますが、本当の経済危機は戦後の誰もが仕事がなかった時代でしょう。まだ戦後から 100 年たっていません。

それでも、日本は戦後の焼け野原からは立ち直っているのです。施しのようにお金を配る予算の使い方を意固地になって行う暇があったら、もう少し国民全体の意見を聞いて、使ってほしいです。
2 兆円あれば、少なくとも病院や介護施設は、改善できるでしょうし、介護職員の給料も少しは上げられると思うのですが。
介護職員の給料は、安すぎて大人が家族を養って働ける環境にはありません。トヨタを解雇された人など、介護職員になってもらいたくても今の給料では一時的にしか続けられません。日本の職場の構成も製造業から介護などにシフトすれば、みんな医療や介護の苦しみをわかるようになると思います。
政治家の人は、選挙前になると無限の予算があるようなばらまきを行おうとしますが、我々は予算が有限だということはわかっているし、それならどこに重点的に使うかを真剣に考えてほしいと思っています。
少なくとも軽はずみに 100 年に一度の危機だなんて、自分の責任放棄のようなことは言ってほしくないです。

EBMとオーダーメード治療

第六回 ； 排尿障害

名古屋大学神経内科　渡辺宏久

1, はじめに

この連載では、パーキンソン病の運動機能以外の症状を中心として、最新の標準的治療基準をご紹介するとともに、これまでの治療経験を通じて試してみる価値があるかもしれないと思っている治療やリハビリテーションの方法などをご紹介しています。

第一回 ； EBMって何ですか
第二回 ； 嚥下
第三回 ； 日中の予期せぬ睡眠
第四回 ； パーキンソン病と心臓弁膜症
第五回 ； 腰曲がり

と回を重ねておりますが、第６回のテーマは、「排尿障害」を選びました。

2, パーキンソン病で認める排尿障害

パーキンソン病で認める排尿障害は、夜間の尿の回数が多い（夜間頻尿）、日中の尿の回数が多い（頻尿）、一度尿に行ってもすぐに行きたくなる（尿意切迫）など「排尿回数が増える訴え」の頻度が多く、排尿後も尿が残っている感じがある（残尿感）、尿が漏れる（尿失禁）などは多くないことが知られています。

この中でも、夜間頻尿の頻度が最多であるとする報告が多く、我々の調査でも 50%以上の方から夜に2回以上排尿があるとの返答をいただいています。ただし、夜間の頻尿を含めて一般的に軽症例が多いとされています。

3, 排尿障害がもたらす問題

では、排尿障害は、パーキンソン病の患者さんに対してどのような問題をもたらすのでしょうか？まず最も頻度の多い夜間頻尿について考えてみます。

夜間にトイレへ起きることの問題としては、①睡眠が妨げられる、②十分な睡眠を取れないため日中眠くなる、③夜に起きると足下がより不安定で転倒しやすい、④トイレに間に合わなかった場合の精神的、肉体的不安がある、⑤うつに影響を及ぼす可能性がある、などが挙げられます。

まず、①の睡眠が妨げられるという問題は分かりやすいのでは無いかと思います。もちろん、「夜中に目が覚めてもすぐに眠ることが出来ますよ」とおっしゃる方がいる一方で、「一度目が覚めると中々眠ることが出来なくて、寝たと思ったらまたトイレへ行きたくなって」と深刻に訴える方もいらっしゃいます。特に後者の方々は、夜の睡眠の質が十分でなくなるため、日中もウトウトしてしまい、仕事の効率が低下したり、居眠り運転につながったりする可能性があります。

また、③で挙げたように、夜間にトイレへ行く際には、病気の有無にかかわらず足下は不安定になりがちですし、暗い場所の移動では予期せぬ転倒を生じてしまう可能性が高くなります。さらに、④のようにトイレに間に合わなかった場合、精神的な負担を感ずる方も多いでしょうし、衣服の洗濯や床の掃除などで疲労も溜まってしまいます。こうしたことが重なると⑤に挙げたように、気分的にも滅入ってしまい、さらに睡眠の質が悪化するという悪循環にもつながりかねません。

実際、パーキンソン病以外であっても、うつと夜間の頻尿との間には関係があるとする報告もありますし、我々の検討でも、夜間の頻尿と日中の眠気とうつとは、それぞれが影響を及ぼしあっている可能性が明らかになってきております。このように、一見パーキンソン病と関係のなさそうな夜間の頻尿が動きや気分にも影響を及ぼすことがあり、適切な対応が必要な問題であることが認識されつつあります。

4, 排尿障害の原因

パーキンソン病で認める排尿障害の原因はまだ十分解明されていないのですが、一つの有力な説として、脳内ドパミンの減少に伴って膀胱の排尿に関する筋肉の活動性が高まり、尿の回数が増加するという考えがあります。これは、ヤールの重症度が高いほど排尿障害も強くなる傾向があるとする報告にも合致します。一方で、重症度が軽くても排尿障害の目立つ方、重症度が高くとも排尿障害の目立たない方がたくさんいることも事実ですし、後に触れるように原因の解明はそれほど簡単ではありません。

実際、レボドパを内服すると排尿障害は良くなるかと言いますと、良くなる人もいるのですが、変わらない人やむしろ悪くなる人も多くいます。この原因として、人間の脳内でレボドパが作用する部位（ドパミン受容体）は、D1～D5 まで５種類あるので

すが、パーキンソン病の患者さんの動きを良くするD2受容体の刺激により排尿回数は増えることが動物実験では指摘されています。別の報告で、D1受容体を刺激すると、排尿障害は良くなるといった報告もありますが、まだまだ検討の余地が残っています。

また、最近の報告では、パーキンソン病の排尿障害は前頭葉機能との関連も推定されています。もちろん、夜間・日中の頻尿、尿意切迫感、失禁といった症状は、加齢、前立腺肥大、糖尿病、多発性脳梗塞、子宮下垂による膀胱の刺激（圧迫）、尿路感染症など、パーキンソン病以外の様々な病態で起こるので、注意が必要です。また、夜間頻尿のために睡眠が途切れがちであるのか、睡眠が途切れがちであるために目が覚めたときに尿意を催すのか、どちらが主体であるのか判断に悩む場合もあります。

5, 排尿障害の薬物治療

これまで過去5回の内容と同様に、パーキンソン病の排尿障害の治療として十分なエビデンスのある（確立された）方法は残念ながらありません。以下は、現在十分なエビデンスは無いものの、推奨されている方法をご紹介します。

まずは、感染症が無いかどうかを除外する必要があります。これは病院で尿検査と尿の最近検査を受けていただくことが大切です。普段から、尿の色や性状に変化がないか（白っぽい、混濁が目立つ、血が混ざる）気をつけていただくことも大切です。尿路感染が分かれば、水分をたくさん摂取することや、抗生物質を内服（場合によって点滴）することが治療法となります。

次に残尿が無いかどうかを確認します。もし残尿がたくさんある場合には泌尿器科にて適切な治療法を選択してもらうことが大切です。また、運動機能の状態にかかわらず失禁する場合にも泌尿器科を受診していただくようにしています。

残尿が無い場合、頻尿を押さえるお薬を飲んでいただくことを考えます。少し前までは、頻尿を押さえる薬が、膀胱や尿道のみならず脳にも作用するため、パーキンソニズムを悪化させる可能性や、認知機能に影響を及ぼす可能性がありました。最近はこうした副作用の少ない薬剤が日本でも発売されており、私もこうした薬剤が有効であった方を経験しています。

6, 排尿障害の薬物治療以外の対策

夜間頻尿であれば、夕食後の水分は控えめにする、夕食時のアルコールは避けるもしくは控えめにする、もし尿意で目が覚めてもすぐに用を足すことが出来るように寝床の近くにポータブルトイレを設置する、下着の変更を考慮する、パジャマはファスナーやボタンではなくマジックテープやゴムで簡単に着脱出来るものにする、トイレまでの廊下に手すりを付ける、トイレまでの廊下の電気を付けやすくする、寝ている状態からすぐに起き上がることが出来るよう、ベッドの高さや布団の素材を工夫するなど、色々な対策があります。

また、尿意と無関係に何度も目が覚める、夜中に怖い夢を見る、大きな声で叫ぶといった症状がある場合には、別の病態が原因である可能性も十分にありますので、神経内科の主治医に相談してください。

日中の頻尿や尿意切迫であれば、やはり着替えやすい衣服にする、外出前には必ずトイレへ行っておく、尿意によらず定期的にトイレへ行くようにする、適宜パッドを使うことなども有用です。薬を飲んだ後や食後にはトイレへ行くことを習慣にしている方もいらっしゃいます。もちろん、動きの悪さのためにトイレへの移動が困難、衣服を着替えることが困難といった場合には、レボドパ製剤やドパミンアゴニストの調整が有効になります。

7，第6回のまとめ

今回は、パーキンソン病の排尿障害の病態と治療についてご紹介をしました。パーキンソン病で認める排尿障害の基本は「尿の回数が増えること」で、このために様々な問題が生じてくる可能性があります。まだまだエビデンスはありませんが、副作用少なく有効性の期待出来る薬剤も出てきています。さらに、パーキンソン病以外の病態が原因である可能性もあります。もちろん、日常生活の工夫や適切な割り切りで十分対応されている方々もみえます。

排尿の治療をすることで、日中の眠気が良くなったり、動きの改善を認めたりする方も経験します。排尿の問題は中々主治医に言いにくいかもしれませんが、是非一度思い切って相談してください。

名大病院クリスマスコンサートを終えて

中部学院大学　鵜飼久美子

「♪♪♪　ソソファミドレラ～、シシラソ#ファソド・・・♪♪」

コンサートで演奏した“星に願いを”のメロディです。毎月1回行っているナディックでの音楽療法を、何かの形で外に向けて発信したいとの思いが、クリスマスが近づいた昨年 12 月 19 日に、院内コンサートという形で実現しました。

当日は、120 名を越す入院患者さんが会場まで足を運んで下さいました。中には、小児科病棟の看護師さんでしょうか、小さな患者さんを抱っこしたまま、最初から最後まで通路側で聴いて下さいました。私は、この看護師さんはどんなお気持ちで音楽を聴いて下さっているのかな、と思いました。きっと、その小さな患者さんに‘音楽’を聴かせたいという深い思いがあったのかな、と勝手に想像していました。

プログラムは、会員の皆様によるトーンチャイムで、“賛美歌”の演奏。　次は楽器をベルに持ち替えて“星に願いを”の演奏です。
この曲は、途中で、弦楽四重奏に移り、最後には合奏という形をとりました。折角、プロの演奏家に来ていただくのに、何とか合奏ができないかと苦心しました。
昨年の 9 月ころには、合奏用の楽譜を書いていました。弦楽器は、楽器ごとに楽譜が異なりますが、そんなことは言っていられません。

とにかく「このように演奏して下さい」と、手書きの楽譜を送りました。勿論、相手はプロですので、きっと理解して演奏してくださる、と見越しての楽譜でした。結果は見事でした。私の意図したことを、想像以上の音にしてくださいました。
クリスマスには、全国各地で“星に願いを”が演奏されたと思いますが、あの合奏は日本で、いえ世界でただ一つのものでした。

そして後半はプロの演奏家による弦楽四重奏です。母校の先輩後輩に演奏依頼をしたところ、快く引き受けてくださいました。会員の皆様からは、「間近で素晴らしい演奏が聴けて感動した」とか「演奏家の表情が音楽と重なり、引き込まれた」といった感想も寄せていただきました。

ここでちょっと弦楽四重奏団のウラ話を！！
11月になって、パンフレットを作るのにグループ名があった方がよいということになり、あれこれ考えました。最初は母校の一字である「菊」の英語「クリサンスマムズ」からスタートして、ドイツ語の「クリサンテメ」、最後はチェコ語で「アンサンブル・クリザンテム」と決まったのでした。これは、第 1 バイオリンの北垣紀子先生の知り合いの学者である先生に確認をとって命名となりました。

たった一度しか使わないグループ名でしたが、あれこれとやりとりをしていて何かを作り出すことの面白さを実感しました。しかし、一度だけとは、少々もったいないですね。さてさて、ウラ話を始めますとキリがありません。♩

先日皆さんにアンケートを行ったところ、全員の方が、「今年もまた、コンサートがあれば参加したい」と回答くださいました。うれしい悲鳴です。
さて、どうしましょう。反省を踏まえて、じっくりと考えることにします。

名大病院ナディックの音楽療法

２月 17 日（火）　・　３月 17 日（火）　・　４月 14 日（火）
いずれも午後 2 時 30 分～3 時 30 分

申込み・お問合せ　：
鵜飼　　TEL　０５２－８３４－４１５０

音楽療法：名大・クリスマスコンサートの大成功

南区　山田　良知

パーキンソン病になって、今まで出来たことが出来なくなったりすることが多々あります。やりたい、行きたいと思っても体が動かない、足が鉛の重りをつけた感覚です。つまり、すくみ足の状況です。
私がこの音楽療法を知ったのは昨年の７月頃で、症状として声が出にくくなったり、あまり外出しなくなったり、人との接触が無くなったり・・・等々が出てきた頃です。会報で案内されていた一日交遊会（ブルーボネット開催）に参加し、鵜飼先生の音楽療法の事を知りました。

鵜飼先生からの働き掛けにより、名大のクリスマスコンサートの発表会に参加しましょうとの発案がありました。
１１月に入り楽譜とトーンチャイム、ベルの譜面、練習用ＣＤが郵送されてきました。送られて来たCDは、もう時間も余り無くなってきたので、自宅で夫々練習して下さい・・・・・・・・・。
一日数回練習してみました。それでもまだまだ心配ですが、鵜飼先生や多くの方たちが取り組んで下さったことを考えるとそんなことは言っておられませんし、頭が下がります。

発表会当日は１２時４５分集合、共に合同練習をやる。会員の方が作られたコサージュが胸元を飾っています。私たちを支えてくださる方々もスタンバイしています。
弦楽四重奏（アンサンブル・クリザンテム）の皆さん・・・・・・・、素晴らしい演奏です。アンコールも有りました。
会場の皆さんと共に、クリスマスキャロル（ジングルベル、きよしこの夜）を高らかに合唱しました。
今回のクリスマスコンサートに参加したパーキンソン病友の会に対して、名大病院・松尾院長のお名前の感謝状が、平山医師より大道会長に手渡されました。
今日は、ブラボー！！

クリスマスコンサートに参加して

春日井市　森　久子

昨年暮れの１２月１９日(金)に名大病院中央診療棟２階のリハビリ広場で、クリスマスコンサートが開催され、私も参加させていただきました。　当日は多数の方が聴きに来てくださいましてとても緊張いたしました。
コンサートで私たちは「賛美歌５３２－やすかれわが心よ」、「星に願いを」を演奏いたしました。
その練習に当たっては鵜飼先生をはじめ、鈴木先生、東谷さん、大坪さん、河合さんたちにハンドベル、トーンチャイムなどの楽器ほか演奏に必要な器具一式を私たちの座る座席まで用意していただき、また練習の間に飲む飲料水まで準備していただきました。本当にお世話になりました。

初めて音合わせをしたとき、平山先生、鵜飼先生共に「３回の練習で大丈夫かな？」と思われたことと思います。鵜飼先生が演奏者全員にそれぞれのパートの個別楽譜を一人一人に書いて CD と一緒に送って下さり、自宅でも練習することになりました。私はハンドベルとトーンチャイムの代わりにファイブミニの瓶を振って練習しました。一人で瓶を逆さまにして　CDを聞きながら音を鳴らしているつもりの姿に笑ってしまいました。

練習のおかげで、一回目より二回目、二回目より三回目とだんだん音がそろってきて、皆さんに聴いていただけるようになったと思います。
（本番のときはあがってしまい、少し間違えて申し訳ありませんでした・・・・。）
またこのコンサートの為に鵜飼先生のご友人の北垣紀子さん、澤田幸江さん、花井晶子さん、高木俊彰さんによって、急きょ結成された「アンサンブル・クリザンテム」と名付けられた弦楽四重奏の演奏がありました。
演奏は「四季」、「水上の音楽」、「セレナーデ」、「メヌエット」、「デイベルテイメント」ニ長調の曲で、今までに聞いたことのある曲でした。目の前で素敵なドレスですばらしい演奏を聴かせていただき、もう大感激でした。

これぞクリスマスコンサート、本当にありがとうございました。　もうこんな機会は二度とないと思いました。
このような機会を与えていただいた、鵜飼先生　平山先生並びに関係された皆様に心から感謝いたします。
このコンサートで患者さんの心が癒され、少しでも元気になっていただければ共に演奏に携わった者の一人としてとても嬉しく思います。

クリスマス・コンサートに参加して

緑区　**池田　冨美子**

12 月 19 日 名大病院中央診療棟２階リハビリ広場で開催されたクリスマス・コンサートは、鵜飼先生のもと、たくさんの方々からあらゆるお力添えを得て無事終える事が出来ました。当日は、プロの弦楽奏者の北垣紀子さん、澤田幸江さん、花井晶子さん、高木俊彰さんの４人の方が弦楽四重奏の「アンサンブル・クリザンテム」を結成して、ボランティアで共演して下さいました。

またバックでは、鈴木先生と大坪さん、岐阜県支部の伊藤さん、山口さん、医大生の大森さん、都築さん、笠原さん、音楽療法士の東谷さん、河合さん、平山先生秘書の山岸さんの応援もあり、温かい雰囲気に包まれて、私達友の会の患者と家族はトーンチャイムで賛美歌「やすかれ、わがこころよ」とハンドベルでディズニーのアニメ・ピノキオから「星に願いを」の２曲を演奏致しました。

本番には、スタッフの方も含めて全員、会員の方手造りのお揃いのコサージュを胸につけて臨みました。私は席に着いたところぐらいまでは覚えているのですが、そのうち頭の中が真っ白になって鵜飼先生のタクト、大坪さんの指し棒も目に入らず、最初の出だしから間違えてしまいました。申し訳ございません。

けれども『アンサンブル・クリザンテム』の皆様のすばらしい弦楽四重奏で、いずれも聴き馴染みのある名曲の数々を目の当たりで堪能させて頂いた上、アンコールにまで応えて頂きました。その後は、会場の皆さんと一緒に『ジングルベル・きよしこの夜』を大合唱！！　お蔭様で、まるで夢のようなこの上ない楽しいひとときとなりました。
また花束贈呈の時には、不器用に差し出された花束を、“パッ”とお顔を輝かされ喜んで受け取って下さり、優しいお言葉を掛けて頂いた上、握手まで、もう大感激でした。お忙しい中、開催の趣旨に賛同されての心温まる応援本当にありがとうございました。

最後に、友の会の顧問で、ナディックルームでも御世話になり、今回コンサートの司会・進行もして下さった平山先生が、「このようなイベントに参加する事は、病にとって大変良い事です。ただ身体の状態にもよりますが」と言われた言葉がとても印象的でした。私もイベントに参加するかどうかでよく迷いますが、思い切って参加してみると、案外身体の方も何とかついていけて、やはり参加して良かったといつも思います。

今回は特に　本番は無理かもしれない！　と覚悟もしていましたが、鵜飼先生の「本番の日に体調が悪くなるという事もありますから、その時は連絡して下さい。決して無理はされないように」といつも皆の事を気遣って言って下さるお言葉に甘えて、ギリギリまで様子をみてから決めようと思いました。そして前日消化器内科で処方して頂いたお

薬を飲んで参加し、何とかもたせる事が出来ました。それは単にドーパミンが多く出て来たからというだけでなく、当日関わって下さったたくさんの方々のご好意によるものと感謝しています。まず、控え室になっている３階の会議室に行くのに迷って、廊下で通りがかりの学生さんに尋ねたところ、一緒に行って下さり、コンサートの事もご存知で「後で覗いてみようかな？」の言葉に嬉しくなりました。控え室では、患者さんの奥様が、動けない私をいろいろ気遣って下さり、本当にありがたく助かりました。

また本番直前には、会場の傍のトイレで落ち着かない様子でいた時、コンサートに来て下さったらしい方から、「いい色のカーディガンですね、　とても似合っていますよ！」と元気づけられ、終わってエレベーターから降りた時も、見知らぬ方からお礼を言われて、感謝の気持ちでいっぱいです。このような貴重な体験をさせていただいて、「今回も諦めないで挑戦してみて本当に良かった」と心から思いました。
これからも、体調と相談しながら出来る限り参加したいと思っています。

思い返してみますと、昨年夏、構音障害改善のために毎月１回音楽療法を受けている鵜飼先生から、演奏会を開催したら参加出来ますか？という質問のアンケート用紙を頂きました。その頃調子が悪く、体力その他に自信はなかったけど、「こんなチャンスを逃すのはもったいない」と思って参加するという方に付けた丸は、自分でもびっくりするほど小さかった事を覚えています。鵜飼先生と鈴木先生の音楽療法はとても楽しいのですが、休まずに通えるかどうかということが一番の心配でした。

演奏会の開催される事が決まり、新しく音楽療法士の東谷さん・大坪さん・医大の学生さん達も加わって練習のお手伝いをして下さいました。
そして１ヶ月前になると練習用の CD で、鵜飼先生が個別に担当の音を印して下さった譜面を見ながら、自宅でも練習するようになりました。

私は手芸用のフエルトを何枚か巻いて袋に入れた物を握ってしましたが、最初はなかなかタイミングが合いませんでした。少しずつ慣れきて本番が近づいた頃、２人の孫達がそれぞれ自分のマラカス（おもちゃ）を持ってきてハンドベルの代わりにしたら？　と貸してくれました。そして小学２年生の孫娘は時々、トーンチャイムにみたてたカチカチと言う木のおもちゃ（百円ショップで見つけて買ったばかり）と共に私の担当の音以外のパートを手伝ってくれた為、助かりました。

いよいよ当日になり、大きな楽しみでもあり、練習の成果が発揮できるかどうか心配で、ドキドキしながら迎えたクリスマス・コンサートは、皆様のお蔭で大成功してホッと致しました。そしていつも帰りの車内で悩まされている首の凝りさえ心地よい疲れのせいか、それほど苦になりませんでした。

翌日の午後、コンサートの事が大きく報じられている中日新聞朝刊の市民版を見ている

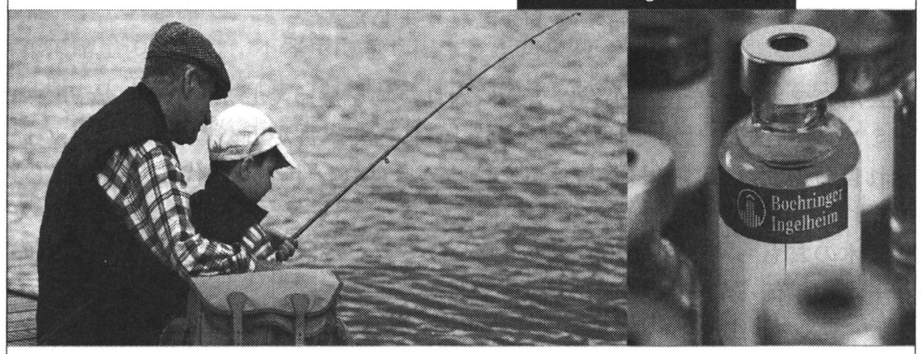
と、部屋に入ってきた孫娘が「バアちゃんが新聞を読んでいるのを初めて見た！」と目を丸くしています。それで、「昨日の事が載っているの」と言ったら、「パパ！　ママ！」と、大声で叫びながら広げたままの読みかけの新聞を全部リビングに持って行く後を私は慌ててついて行きました。少し手伝ってくれた事もあって、よほど嬉しかったのでしょう。私も大満足でした。
幾つになっても新しい事を学んだり、挑戦したりすることは、ワクワクして気分が昂揚します。音楽療法でこの楽しさを経験させて頂いたお蔭で、時々「言葉がはっきりしているネ」と言われるようになり、喜んでおります。（家族からは、相変わらず何度も聞き直されますが・・・）

この度は、日頃の励みになればとこのように大きなコンサートを企画、実行してくださり本当にありがとうございました。　鵜飼先生はじめ、大勢のスタッフの方々、色々な面でご支援下さった皆様、それぞれお忙しい中で長期にわたり準備から後片付けまで、さぞ大変だった事と頭が下がるばかりです。

お蔭様で私達は、皆で一つの目的に向かって努力する充実感とその成果を発表できた事で、達成感まで味あわせて頂きました。今後の大きな励みになると思います。
新年度初めての役員会の時、ひとり１人が精一杯元気になることが、皆様のご好意に対する何よりの御恩返しになるのではと話し合いました。本当にありがとうございました。
支援して下さったすべての皆様に心からお礼申し上げます。

健やかな関係、ずっとあなたと。

Value through Innovation



私たちは画期的な新薬の開発に挑むグローバルな
製薬企業グループの一員です。
私たちは薬を通して、人と地域と世界と、
健やかな関係を築いていきます。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社　本社／〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
http://www.boehringer-ingelheim.co.jp/

Boehringer
Ingelheim

クリスマスコンサート

岩倉市　**増田　民子**

鵜飼先生、ありがとうございました。
平成２０年１２月１９日のクリスマスコンサートに出席して、心おだやかなひと時を過ごせた事に感謝いたします。

あんなに近くで演奏されるのを見たのは初めてです。プロの方で結成された　『アンサンブル・クリザンテム』の奏でる、美しいハーモニーと迫力に、しばし我を忘れました。
その時に演奏される方のお顔の表情に、私は一番心を癒されました。なんとも表現出来ない、穏やかなお顔の表情に心を奪われておりました。
ふと、気がついて周りを見回してみますと、皆様もうっとりと物音ひとつ立てずに音楽の中に溶け込んでいらっしゃる姿に感動しました。
音楽の持つ不思議な力、心に染み入って聴いておりました。

去年はモーツアルト生誕二百五十年。この方の曲は癒しの音楽と聞きましたので、娘に頼んでレンタルでCDを借りて、それをテープに録って貰って、寝る時にいつも聴いていました。
クラッシック音楽を身近において過ごしたのはこれが初めてです。
名画にしろ、音楽にしろ、“よく解らないけど、なんとなく良い”と感じるだけでいいそうです（以前、新聞で読みました）。

何でも、物事を起すのは大変ですが、ここまで盛大に心に残るコンサートを発案、企画、実行して頂いた平山先生、鵜飼先生を始め、スタッフの皆様、学生さん、岐阜県支部の皆さん、平山先生秘書の山岸さん並びにアンサンブル・クリザンテムの皆様の温かいご支援に感謝いたします。
友の会の私たちも仲間に入れて頂いて、ありがとうございました。
主役はこちらかな？

１ヶ月に１回の音楽療法、毎回楽しみに出席しています。これからもよろしくお願いします。

多くの人に支えられて、コンサート！

緑区　**池田幸夫**

さあ～っ　いよいよ始まるぞ！　この１年、月１回の訓練を重ねてきた音楽療法の成果を示すＸマスコンサート（H20.12.19）が名大付属病院で今から開かれる。
これは中部学院大学の鵜飼久美子先生がパーキンソン病患者の構音障害を改善すべく始められた講座で、今年の初めから名大付属病院のナディックルームで改善訓練とコンサート訓練を積んできた。

名大神経内科の平山正昭先生の司会で遂に始まった。先生は我々のことを“正直言って下手ですが・・・・”と紹介されたが、私は心の中ではこの１年の成果を見事に発揮するのだと思ってわくわくしていました。
しかも今回のＸマスコンサートに友情出演（ボランテイア）ということで、急遽結成されたプロ集団である『アンサンブル・クリザンテム』（後記参照）との共演ということで、いやがうえにも意識が高まってきます。

鵜飼先生のタクトでスタート。最初はトーンチャイムを使った「讃美歌―やすかれ、我が心よ」。 今までは先生の音頭についていけば良かったが、本番はそうはいかない。
鈴木千春先生のピアノで始まり、スタッフの大坪信子さんの楽譜の音符を示す指し棒を見て、皆は（約３０名の患者）演奏する。
岐阜県支部から応援で伊藤まゆみさんと山口芙美子さんが駆けつけて下さり、鵜飼先生スタッフの東谷悠子さん　河合さくらさんと平山先生秘書の山岸千恵さん並びに名大医学部から学生の大森茉令さん、都築一仁さん　笠原嵩翔さんの皆さんが前奏、間奏で我々をリードし盛り上げて下さる。
静まりかえった会場の中で、弦楽器の旋律に和するように響く柔らかいトーンチャイムの音色に、“素晴らしいハーモニーだ！”とうっとりしていると、うっかり自分の受け持ちの音を見逃していた。あわてて次から演奏したが、それほど素晴らしいハーモニーでした（～と思う）。

次いで「星に願いを」をハンドベルでアンサンブル・クリザンテムとの共演。素晴らしいハーモニーを奏でることが出来た、至福のひと時でした。
会場は立席を含め、約１００人以上の観客でいっぱいになり、万雷の拍手が我々を迎えてくれました。

締めくくりはアンサンブル・クリザンテムによる弦楽四重奏。我々に親しみのあるクラシックから選曲されたものを次々に演奏していただき、最後はアンコールにも応えていただきました。プロの方々にボランテイアで参加して頂き、ここまで我々を応援して下さるとは本当に信じられないほどのひと時でした。

Ｘマスコンサートが終わった時、多くの方に助けられ、応援されているのだということを切実に感じました。そう感じたことは、参加者全員の気持ちだと思います。

その善意に素直に感謝し、少しでも元気になることが恩に報いることでしょう。
音楽療法は年初からスタートし、一日交遊会を含めてこの１年間、毎回多くの楽器（ピアノ、トーンチャイム、ハンドベル etc　）を鵜飼先生、鈴木先生を始め前述のスタッフの方が名大付属病院や他の会場まで運搬して下さいました。
アンサンブル・クリザンテムは今回のために結成されたプロ集団ということをお聞きしましたが、ボランテイアでここまで協賛していただけたことは驚きでした。

これだけ多くの方たちの善意に支えられ、お陰様で今年は最良の１年となり１年間という長い時間を私は他の会員と同じ目標を持って歩むことが出来ました。
本当に、本当に有難うございました。
松尾名大病院長からの感謝状が平山先生から友の会の大道会長に手渡されました。本当にありがたいことです。
しかし御世話になったのは友の会の方ですし、御世話になった皆様に我々から感謝状を差し上げたいと思うほど充実した一年であり、最高に結実した一日でした。

世の中、素晴らしいじゃないですか、
自分一人では無い、沢山の仲間と一緒ですよ！

難病治療 背中押す音色

昭和区の名古屋大医学部付属病院で19日、クリスマスコンサートが開かれ、パーキンソン病患者やその家族らが弦楽奏者のグループと共演した。（加藤弘二）

パーキンソン病友の会会員も参加して行われたクリスマスコンサート＝昭和区の名大付属病院で

名大病院　弦楽器と共演 Xマス会

出演したのは患者や家族らでつくる県パーキンソン病友の会。今年二月から院内で音楽療法に取り組んでおり、練習の励みにしようと演奏会を企画した。この趣旨に弦楽奏者四人でつくる「アンサンブル・クリザンテム」が賛同し、クリスマスに合わせて開いた。
患者らはトーンチャイムを一つずつ手に持ち「星に願いを」など二曲を披露。患者らは手足の震えや動作が鈍くなるなどの症状はあるものの、バイオリンやビオラの伴奏にのせてリズム良くチャイムの音色を奏でていた。
演奏を終えた患者の女性(六五)は「担当して鳴らす音は少しだけだったけれど、楽しかった」とうれしそうな表情。音楽療法を指導している鵜飼久美子さんは「心地よい緊張感に包まれ、患者の皆さんにとって良い刺激になった」と話した。

〈１２月２０日付け中日新聞朝刊が伝えるコンサート〉

注；アンサンブル・クリザンテムの皆さん；

- 北垣　紀子さん：第１ヴァイオリン　東京芸大卒
- 澤田　幸江さん：第２ヴァイオリン　愛知県立芸大卒
- 花井　晶子さん：ヴィオラ　愛知県立芸大卒
- 高木　俊彰さん：チェロ　東京芸大卒

一日交遊会のお知らせ

〈　会員の皆様へ　〉
新年を迎えて１ヶ月が過ぎました。寒さの中で運動不足になっていませんか？
冬の１日、思い切り心身を動かそうと一日交遊会を企画いたしました。
ぜひご参加くださいますよう、下記にご案内いたします。

事務局・**後藤サヨ子**

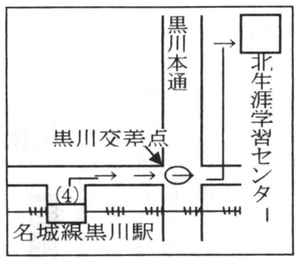
記

〈　一日交遊会の案内　〉

１、期日　：　平成２１年２月２７日（金）　10:00～15:00

２、場所　：　名古屋市北区黒川本通２－１６　北生涯学習センター視聴覚室

３、交通　：　地下鉄名城線黒川駅下車４番出口を右に出て、黒川交差点を渡って左折し約２０ｍで右に見える。
黒川駅より歩いて５分ほどです。



４、行事内容と時間割り　：10:00　～　15:00 まで

（１）音楽療法　･･･ 講師・鵜飼久美子先生 ･･････ 10;00　～　11:30
（中部学院大学）

（２）お話し会　･･･ 食事をいただきながら ･･････ 11;30　～　13:00
テーマ：生活の中の工夫

（３）リハビリ　･･･ 講師・近藤　将人先生･････ 13:00　～　14:30
（本町クリニック）

（４）休　憩　･･･・お茶の時間です ･････････ 14:30　～　15:00

５、参加費　　：　１、０００円/人　（食事代に充当します）

６、申込み先　：　２月２２日（日）までに下記宛にハガキでお申込み下さい
〒４５８－０００５
名古屋市緑区鳴丘１－３１４　　後藤サヨ子
先着３５名まで受付

以上

服部神経内科　本町クリニック

〒460-0008　名古屋市中区栄　3 丁目 20-29
院長　服部達哉　　副院長　服部優子

診療時間

時間＼曜日	月	火	水	木	金	土	日
午前 9：30 ～ 12：30	○	○	○	／	○	○	／
午後 3：00 ～ 6：30	○	○	○	／	○	／	／

この他に祭日は休診とします

電話　０５２－２４９－０１０１

パーキンソン病患者から万能細胞

慶大などが作製　　東京新聞：ＴＯＫＹＯ　Web

パーキンソン病の患者の皮膚から、さまざまな細胞に成長できる新型万能細胞「iPS 細胞」を作製したと、慶応大の岡野栄之教授が９日（２００９年１月９日）、大阪府豊中市で開かれたシンポジウムで発表。順天堂大との共同研究。

パーキンソン病は、脳内で神経伝達物質のドーパミンが不足し、手の震えなどが起きる疾患。皮膚を提供したのは、６０代の遺伝性のパーキンソン病患者。

岡野教授らは、得られた iPS 細胞を今後、ドーパミンを出す神経細胞に分化させる計画。将来は発症の仕組みの解明や、創薬の研究に役立てたいとしている。

患者由来の細胞から iPS 細胞をつくる研究は、iPS 細胞開発者の山中伸弥教授が率いる京都大チームや、海外の研究機関でも進められている。岡野教授らは、網膜変性症や総合失調症など、ほかの疾患の患者から iPS 細胞づくりにも取り組んでいるという。

国会請願参加者募集

パーキンソン・デー国会請願行動に参加希望の方は３月末日までにお申し出ください。

日時　　平成 21 年４月１４日（火）新幹線・名古屋発　９時ごろ　日帰り
費用　　往復運賃は友の会で負担します。大勢の場合は抽選５名。
申込　　℡　050-3335-4970　越澤　博

全国友の会第３３回総会・大会参加者募集

日時　　平成 21 年６月１８・１９日（木・金）
場所　　富山市
☆　　開催日時は決定しましたが、詳細は未定。後日お知らせいたします。

新薬で人々のいのちと健康に貢献します。

どこかで病気と闘っている患者さんのために。
健やかな明日を願うすべての人のために。
ノバルティス ファーマは革新的な医薬品を提供し続けます。
ひとつひとつの輝くいのちを見つめながら。

NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社
〒106-8618 東京都港区西麻布4丁目17番30号
http://www.novartis.co.jp/

手芸教室参加者募集！

本年１月より第３木曜日に、手芸教室『ひまわりの会』を始めました。
１回目は募集が間に合わず、女性役員で開催し、
新聞紙のカラー印刷部分で、コサージュを作りました。
２月は牛乳パックで箸置きを作る予定です。
興味のある方は、下記までお出かけ下さい。
持ち物は何も要りません。こちらで用意します。
参加お待ちしています！！

✧ 場所　熱田区熱田図書館　集会室　TEL　052-671-6600
JR 熱田駅前（名古屋方面に向かって左　徒歩 110m）
注意！車でお越しの場合は、区役所地下駐車場に入れて下さい。駐車券は、図書館で来館証明を受けてください。

✧ 時間　13：00～16：00
注意！13 時にならないとドアを開けてもらえません。
早く来られた時は本でも読んでお待ちください。

✧ 申し込みは不要です。自由に参加して下さい。
問い合わせ　山尾　052-622-8675　肥後　090-5863-6474

✧ 予定表

	月日	内容
1	1月15日	新聞紙でコサージュを作る。
2	2月19日	牛乳パックで箸置きを作る。
3	3月19日	
4	4月16日	
5	5月21日	
休み	~~6月18日~~	未定です。手軽にすぐに出来る
6	7月16日	物があれば、教えて下さい。
休み	~~8月20日~~	
7	9月17日	
休み	~~10月15日~~	
8	11月19日	
9	12月17日	

この手芸教室の名称は、いつも前を向いて行こう、ということで
『ひまわりの会』としました。　　山尾・肥後

牛乳パックを使った「箸置き」の作り方　（ひとつの例）

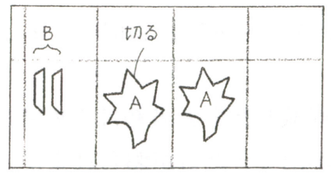
71　28ページ

箸置き

【材料】
牛乳パック(500㎖)…1個
和紙(柄)…9㎝×7㎝
和紙(無地・赤)…9㎝×7㎝
和紙(無地・茶)…5㎝×3㎝
水溶性ニス

①牛乳パックと和紙を切る。

<製図>牛乳パック



B２枚　A２枚（型紙どおりに切る）

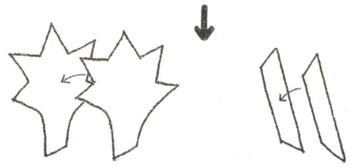
<製図>和紙

a １枚
（型紙Aどおりに切る）

b １枚
（型紙Aを裏返し同じ寸法に切る）

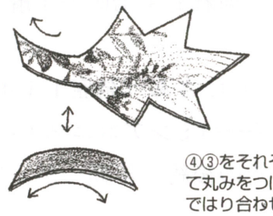
c １枚
（型紙Bどおりに切る）

d １枚
（型紙Bを裏返し同じ寸法に切る）



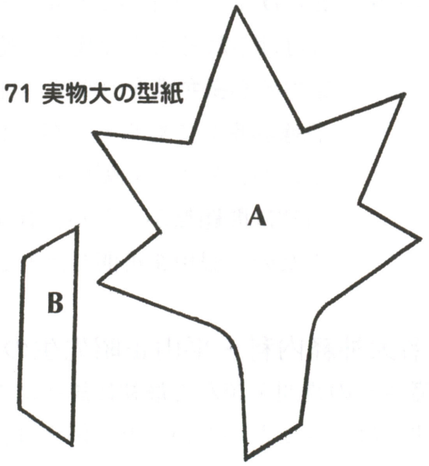
②牛乳パックA、Bをそれぞれ手芸用ボンドではり合わせる。

③牛乳パックAに和紙aとbを、牛乳パックBに和紙cとdをそれぞれはる。牛乳パックの断面は、和紙をのばして覆うようにはる。



④③をそれぞれ指先で曲げて丸みをつけ、速乾接着剤ではり合わせる。仕上げにニスを塗り、できあがり。

71 実物大の型紙



116

出典：　レディブティックシリーズ通巻 No. ２４３２号より転用しました。
注　：　図中、実物大の型紙とありますが、会報は実物を８０％に縮尺したものです。

2月度：困りごと相談室

事務局　山尾佐知子

H21年1月10日現在、相談・依頼が有りません。そのため近況伺いの電話で得られた話しの中から、下記の相談内容を設定させて頂きました。関係される方にお礼申し上げます。今後の参考になりますように願っています。

〔相談２－１〕は薬に関することなので、名大神経内科の平山正昭先生にコメントをお願いしました。
〔相談２－２〕は入院の期限が３ヶ月を超えると転院しなければならないケースが多々あります。その事情と対策について神野久美子顧問にお伺いしました。

〔相談２－１〕薬の一部の服用を中止したら、症状が軽減した方と当初は止めて良かったが、暫くして顕著な症状（特に無動）が出てきた方がおられます。
何れも主治医の了解の下に実施したものです。

（症例―１）Ｃさん（発症１１年、女性）は心臓の動悸が激しく、先生と相談しドーパミンアゴニスト系・Ｅの服用を中止したら動悸が無くなった。
その後約一年経つが、身体の変化は無く現在も継続中である。

（症例―２）Ｄさん（発症１０年　６３才　女性）は或る日、睡眠中に突然、胸を締め付けられるような痛みを感じた。会報４１号に掲載された名大・渡辺宏久先生の心臓弁膜症の原稿が自分の症状にピタリと一致。
急遽診察してもらったが、心臓弁膜症の恐れは無いとのことでひとまず安心したが、先生にお願いしてドーパミンアゴニスト系・Ｆの服用を中断した。
当初は問題無かったが、３ヶ月経過した頃に“すくみ、無動”の症状が出てきたので服用を再開したところ、体調は以前の状態に回復した。

〈名大神経内科・平山正昭先生のコメント〉

患者さんの質問を読んで最初に思ったことは、プラセボ効果と言う言葉です。プラセボ効果とはどうことかというと、例えば、ある薬の実験を行う時に、薬に効果があるかどうかを調べる時には、実際の薬を飲んでもらって効果を見るだけでなく、必ず実際には効かないがその薬を同じ形の薬も同時に調べます。これはなぜかというと、プラセボ効果と言って実際に効くと信じて飲むとどんなものでもある程度効いた気になります。

例えば、胃炎の薬などは、プラセボであっても半数の方に効果があります。したがってプラセボ以上に効いていないと薬に効果があったとは言えないので、薬として認可されません。健康食品だと、“健康食品だと効いた人がいます“とプラセボ効果について検討せず、いい加減な情報でも売っています。

薬になるにはちゃんとした効果があるという根拠がいるのです。このプラセボ効果はパーキンソン病の患者さんで特に大きくて、PET の研究でも実際にプラセボを飲んでL-dopa を飲まなくても脳の中のドーパミンが増えたという報告もあります。
これを逆に返すと、何かの本に副作用と書いてあると突然自分に副作用があるのではないかと考えてしまい、その薬の効果を信じられなくなってしまうことがあるのです。

２人目のＤさんはまさにそうじゃないかと思います。弁膜症の副作用があると書かれていますが、急に起きる訳ではなく、実際には日本の統計ではドーパミンアゴニスト系・Ｅは、飲んでいても弁膜症の副作用は明らかではありません。
ドーパミンアゴニスト系・Ｆも４錠飲むといけないが、１錠では副作用ははっきりしません。

一方、１人目のＣさんの動悸についてですが、ドーパミンアゴニストーＥには浮腫、起立性低血圧などの副作用はありますから、それが関係している可能性は否定できません。

このような副作用情報は、医師は薬剤メーカに報告するようにしています。この情報は他の先生にも今後他の患者さんにも活かせると思いますから、ぜひ主治医の先生も感謝していると思います。ただし、自己判断だけでやめているのならば問題です。
これは、自分が主治医だと考えた時、自分の患者さんが自分を信用しないで薬を飲んでいないと知った時にどう思うかを想像してもらえばいいかと思います。

話が脱線するかもしれませんが、薬の副作用ばかりを気にして、健康商品をこっそり飲んでいる人が時々おられます。食品は安全と思っているかもしれませんが、ふぐの白子や毒キノコでも食品です。
むしろ、副作用をちゃんと調べている薬なら、医師はその副作用も考えながら処方しているので安全なのですが、食品の副作用を聞かれても副作用情報がないので答えられません。
よく、言い訳のように“食べておかしな時には医師に相談してください”と書いてありますが、医師が言えるのは　”では、それは飲まないでください“と言うことだけです。
売っている会社は何も医師に副作用情報を連絡していません。自己責任になります。

2月度：困りごと相談室

〔相談-２－２〕入院しても、３カ月ごとに転院を余儀なくされるがどうしたらよいでしょうか？

（症例―１）Aさんのご主人は現在、N病院に入院中。３ヶ月経過したため、近々遠方の病院に転院予定。近隣病院では受け入れて貰えない。

（症例―２）Bさんのご主人（７３歳）はパーキンソン病発症後脳梗塞等いろいろな病気を併発し、最近はガンを発症。心臓直下に発生しているため手術も出来ない。入院は継続中であるが、この先心配。

＊〔相談２－２〕は神野先生（友の会顧問・東海市市会議員）にお願いしたところ、前参議院議員の山本　保先生が回答して下さいました。

〈前参議院議員・山本　保先生のコメント〉

神野さんからお話しがありましたので、山本　保が、現在の一般的な制度を述べます。手術など緊急の事態を主として扱う急性期の病院（一般病棟といいます）の場合は１４日とか３０日で入院基本料の加算が無くなりますので、次の病院として療養型の病院等を勧められることになります。（病棟ごとに２０日前後を基準としているところもあります）。

お年寄りの療養型の病院　や　パーキンソン病等の難病を専門にする特殊疾患型の病棟では、基本的に入院料が入院期間によって変化はしませんので、早く次に移って下さいということは無いと思います。
どの病院に移れば良いかは、病院の専門家と相談することになります。
法律上、「次の病院は自分で探してください」というのは許されません。法改正の時、私が参議院予算委員会で質問し、確認しました。

７５歳以上の後期高齢者では私の要求通り、次の病院や福祉施設を探したり、調整するための費用が病院に出るようになりましたが、一般の方にはまだその費用がありません。この費用が認められ、それを担当する専門家（医療ソーシャルワーカーMSW）が配置されるように引き続き求めています。
お尋ねのケースがどれに当たるかは不明ですが、詳しい相談は直接連絡下さい。

連絡先　友の会顧問　神野久美子　０５２－６０３－００３１
前参議院議員　山本　保　０５２－３５１－６１６２

今年も元気で頑張りたい

緑区　山尾佐知子

皆様お元気で新年をお過ごしになられましたでしょうか。
今年もよろしくお願い致します。お天気に恵まれて、よいお正月でしたね。
今年も一つでも前進出来るように、努力の日々を楽しく過ごしたいと思います。

昨年は色んな事がありました。年初めは、故丹羽会長の入院から始まり美しい花の咲く頃に天国に行ってしまわれました。アッと言う間の出来事に、私達は唖然として言葉も失っていました。人間として人生の素晴らしい引き際を、勉強させて頂いたのだと思います。友の会みんなで、丹羽さんの想い出を大切に、大道会長と共に協力して、会の発展に努めたいと思います。

今年から、趣味の教室『ひまわりの会』と名づけて、皆で好きな物を作って楽しもうと出発致しました。リーダーとして肥後ひとみさんにお願い致しました。
どなたでも参加は自由です。一人でも多くの人が、一歩外に出る勇気を持って参加して下さい。詳しくは、この会報の中（３６頁）でお知らせしています。ご覧くださいませ。

本町クリニックの音楽教室、近藤先生のリハビリ、名大の音楽教室、保健所の集い。それぞれの先生方は、私達の病気パーキンソン病と、リズムの楽しさを生活の中に自然に受け入れて、体や気持ちをほぐすように教えてくださいます。
楽しいときは自分の辛い事を忘れて、嬉しい事に夢中になる事を教えて下さいます。家にいる時も想い出して自分で自分を励まして、好きな事を一歩一歩前進できるように頑張りたいですね。あの大きなひまわりの花のような心を持ちましょう。

今日も楽しく、明日も楽しく
今年一年で、あなたの幸せはいくつでしょう？　How　much？
会報に一年間の色々な行事が載っています。出来るだけたくさん行事に参加して下さいね。お待ちしております。寒い折、どうぞお身体に気をつけて下さいませ。元気でお会いしましょう。

童謡『新茶のひとりごと』誕生のいきさつ

蒲郡市　**佐々木義祐**

その人の存在はマコトに「お見事」と言ってよい。
一歩部屋に入って「その人」を見ると、先ず人をして「ほっ！」とさせる。
「その人」の「人柄」は、全ての人の心をなごませる。
何かやって貰いたい事があって頼むと、その対応はソフトで、積極的にして、判断も的確、皆に公平で、実に行き届いている。

その素晴らしい人は、豊川ロータリークラブの事務局を担当している「田中幸子」君であります。幼い頃は「幸ちゃん」と呼ばれていたそうです。
現在１人で約７０名の会員の世話をしています。
誰もそれぞれが個性豊かで一言居士ばかり居る中で、我々にとってはまさに無くてはならない人であります。

今回、たまたま幸子君の実家がお茶を作っていることを聞き、「新茶」を賞味させて貰ったところ、まろやかで、適切な渋みがあり、ホントに「旨い」と思い、平田超人さんを始め清水淳史さん、吉澤金二郎さん等々、周りの人達にも味わって貰ったところ、表現の違いこそあれ皆さん方も同じように絶賛された次第であります。
そして、思わずそのお茶を詩にして口ずさんだところ、その詩がそこそこの評価をいただき、調子に乗って長年の夢であった新しい童謡の作曲をこの様式にて身近な方々に募った訳であります。

そうすると、なんと中学時代の恩師（高知市立城西中学校　現在８２歳の中岡春風先生）が“僕が作曲しよう”と名乗りを挙げ、作曲を担当してくださり、「新茶のひとりごと」が出来た訳であります。
そしてスゴイ事に、この恩師は音楽の先生ではなく、理工科系の先生でいらっしゃるということであります。

とにかく、私は今、その素晴らしい人（田中幸子君）が居て、その人を育てた中杉和雄会長以下、歴代会長さんが率いる豊川ロータリークラブに所属させて貰い、幸せを感じている７０分の１人であります。
田中君いつも、いつもありがとう！
そしてそんなあなたを育て、又　あんなおいしいお茶を丹精込めて作られているお母さんに、そして陰で支えていらっしゃる家族の皆様への感謝の気持ちを込めて、この歌を作りました。

創作童謡『新茶のひとりごと』

作詞：峰　海遥（佐々木義祐）
作曲：中岡　春風
編曲：森下　松彦

（一）
お茶が来た
　お茶が来た

三河の国の鳳来寺
　河合の里の　あのお茶が
　新茶となって　やって来た
　茶・茶・新茶のお茶・茶・茶

（二）
お茶が来た
　お茶が来た

幸（さっ）ちゃんとこの母様（かかさま）が
　丹精込めて作ってた
　新茶が遥々　やって来た
　茶・茶・新茶のお茶・茶・茶

2008年(平成20年)12月12日(金曜日)　東三河　16　中

新茶の喜び　童謡に

蒲郡の佐々木さんが作詞

蒲郡市栄町の警備会社グループ代表、佐々木義祐さん(六七)が東三河の地名を盛り込んだ童謡を作詞。依頼を受けて練習を積んできた同市中央小学校の児童が十一日、歌声を初披露した。（中山聡幸）

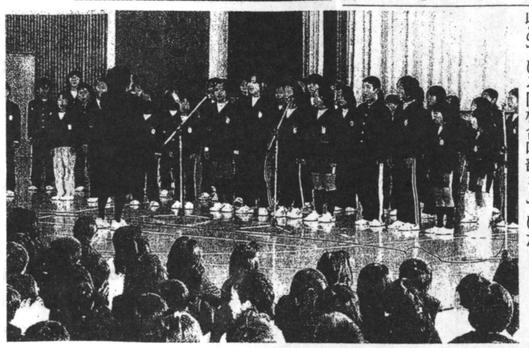
中央小児童が合唱披露

童謡「新茶のひとりごと」は八番構成。「お茶が来た　お茶が来た」の歌い出しで、新茶が各地に届けられる喜びを歌った。鳳来寺、豊川、蒲郡などの地名が登場する。

佐々木さんが所属する豊川ロータリークラブの事務局の女性からもらった、新城産の新茶の味に感銘を受け、初めて童謡の詩を書いたという。高知県に住む中学時代の恩師に曲をつけてもらい、コンクールで優秀な実績を収めている同校合唱部に「歌ってほしい」と依頼した。

この日、学校を訪れた佐々木さんと全校児童を前に、合唱部の四十三人が八番までを通して披露。佐々木さんは「きれいに歌ってもらって感動した」と話していた。

茶 製造元 南山園



上歌詞を手にする佐々木さん　下合唱を披露する児童たち＝いずれも蒲郡市中央小学校で

＊12月12日付け中日新聞が伝える佐々木さんと中央小学校合唱部の皆さん

お知らせ

蒲郡市の中央小学校合唱団が、軽快なリズムで歌う「新茶のひとりごと」のCD と 佐々木さんの自伝記 「嵐、劈く」 をご希望の方は、下記の佐々木さんに申込み下さい。
〈宛先〉 〒443－0035　蒲郡市栄町1－2　カルティア蒲郡902　佐々木義祐

それからの私

南区　山田　良知

パーキンソン病になり、2008 年に 2 度のＤＢＳ（脳深度刺激法）手術をしてから、体調もＧＯＯＤです。
先日、名鉄ハイキングに出かけました。約１４.５Ｋｍを歩けた私です。人、人の中の１人です。子供にも老人にも女性にも追い抜かれます。皆さんはとても元気です。私はトボトボと歩きます。

それでも手術の前には体が動かず、止まったままだったり、休み休み歩行する私でしたが今日は違います。休まず歩けるのです。１０Ｋｍ程歩いた時、足がだるくなりました。それでも私は目的地に向かって歩きます。持参したステッキは一度も使わず、リュックに入れたままです。

最後のゴールまで亀の様にヨタヨタ、モタモタと歩いています。止まらず、休まず、イチニ　イチニと心でかけ声をかけ、声をかけながら歩くのです。
思うに、手術のお陰で歩行がスムースに出来るのです。
夕食時にはハイキングの途中立ち寄った酒造で買い求めたお酒の美味しいこと、美味です、とてもとても！！　主治医のドクターとの会話が楽しみです。

お　導　き

緑区　木村　郁夫

役員の皆様、この度は大変ご苦労さまでした。お陰様で私たちは楽しいひと時を過ごすことが出来、真に有難うございました。
この度の旅行はまさに澄みきった青空の中、そして燦燦と輝く太陽の光に寒さもやや和らぎ絶好の行楽日和でした。実のところ、私は以前から家内に一度何処かに一泊旅行をと計画していた矢先に会報が届き、渡りに船とはこのことかと思って早速応募させて頂きました。
よくよく考えてみると、いつも家内の容態を気にして頂いた故前会長・丹羽さんが導いて下さった様な気がしてなりません。

この師崎には年に３～４回食事に来ていますが、何れも日帰りで海も平面的に眺めていました。この度の旅行で高台にある宿の窓からは紺碧の三河湾、そこに浮かぶ日間賀島、その先に佐久島が眼下に見え、夜は夜でチラチラゆれる漁火の夜景に家内は暫し窓にへばりついて眺めていました。

豪華な夕食を前にして、家内は日頃の溜まったものを一度に吐き出すかのように皆様と会話にそして笑いにと、とても上機嫌でした。
家内のパーキンソン病には薬もさることながら、やはり人様との対話が何よりも効果があるように思います。病の為声が小さく、私が何回も聞き返す日常ですがあの場では人様に聞いて頂けるよう、自分なりに頑張って発声しているな～と思いました。

引き続き平山先生のお話し、それも身近に親近感のある質問による明確な回答に毎回良い勉強をさせて頂いております。有難うございました。
翌朝、朝食時にロビーで私の名前を呼ぶ声に振り返ると、偶然と言うか奇遇と言うか小学校の同級生でした。近々に再会を約束してその場は別れましたが、これも丹羽さんのお導きがあったのかと、それしか考えられない現実でした。
今もって丹羽さんに感謝致しております。真に有難うございました。

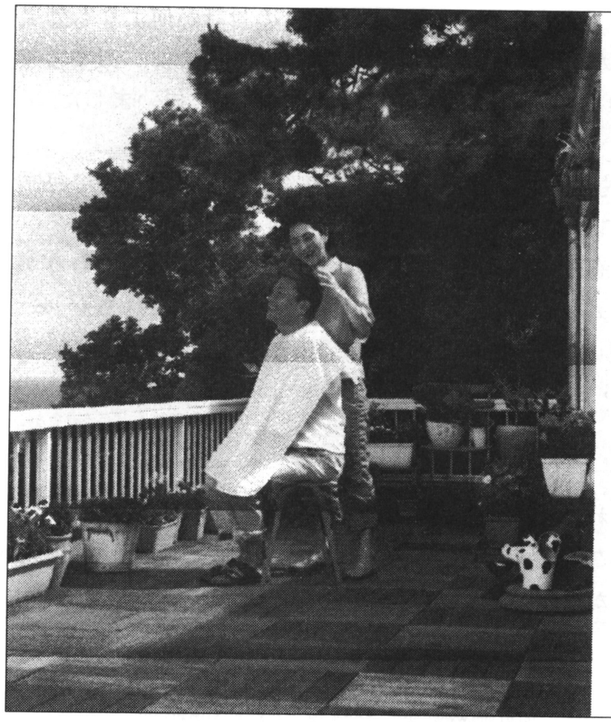
これは昨年１１月２２～２３日に行われた一泊旅行のときのことです。木村さんは２４日には写真を皆様に送られ、２５日にはこの原稿を頂きました。少しでもお役にたったのだと思うと、私達も嬉しくなります。これからもご参加をお待ちします。　　事務局より

Medtronic

明日の笑顔を

パーキンソン病などの
不随意運動と闘う
多くの患者さまに
「明日の笑顔」
を取り戻していただきたい。
それが私たち
メドトロニックの願いです。

日本メドトロニック株式会社
http://www.medtronic.co.jp



家族の
気持ちで
薬づくりを
考える。

病気やケガで苦しむ人にとって、
家族の存在は、
なによりの支えです。
時にはやさしく、
時にはきびしく、
切実であたたかな祈りを胸に
はげまし続けてくれる家族。
私たちは、そんな家族の気持ちを、
新薬づくりに込めたいと願い、
日々、研究開発を重ねています。

大日本住友製薬
www.ds-pharma.co.jp

賀　状　　緑区　越澤　博

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申しあげます。いただいた賀状の中からご紹介します。

○　頌春を元気に！

私の難病も１２年を経過し、病状も２進１退と進行が早まり、行動制約も強くなってきました。世に生きる気持ちは変わりなく、命ある限り役立つように、明るく楽しく、を目標に生きていこうと思います。　　可児市　　小澤二三男

○　新春対談

夫　「ちょっと出かけるよ」　　妻　「どこへ行くのよ」
夫　「うん、そこまで」　　妻　「住所、名前、電話番号、しっかり言えるわね」
夫　「――――――」　　妻　「だって心配だもの」
夫　「帰巣本能は、まだ機能しているよ」　　二人して笑う。

京都市　　山田　光風

○　短歌

新しき福寿暦のとどきたり牛の歩みにすごさんかなや
干し柿の食べごろとなり一連をまた一連をとりいれにけり

神戸市　　浮田　伸子

（パーキンソン病は着実に進行。昨日出来たことが今日は出来ないという悲哀を味わっています。皆様のやさしさに支えられる毎日です。）

ブラインド上げれば春の陽和らいでリハビリに励む我等充たせり

瑞穂区　　太田　浩子

○　俳句

姓変はる娘より海こえ初電話	鎌ヶ谷市	寺島ただし
初鶏やゆるりと明くる知多の海	中　区	光田　道子
痛みぬける日を信じをり去年今年	南　区	江口　久子
席ゆずる笑顔と笑顔あたたかし	昭和区	近藤　匡一
牛臥せる大宰府参道秋時雨	日進市	藤井　　修
年毎に寒さこたえる齢かな	緑　区	川上みのる
初鏡素直に生きる人良けれ	白山市	森　　悦子

短　歌　　守山区　松本紘一

○　病得てすでに幾年体内を流れる川のにごりいや増す

○　いちにちを十四、五錠にて過ごしゆく晩年といふにはいささかはやし

○　怒ること憎しむことのみ親しみて病のひとつをともとなすなり

○　治療例のわづかにあれば救ひにてまなこ開きてその記事を読む

○　おのこ病みて眠りゐる午後三時臨時ニュースは震度二を告ぐ

○　薬効の切れるを知れば呆然と荒れ野のごときに蹲りたり

○　庭隅に捨て置かれたるスニーカーかつて地上を走りし証し

○　鬱躁鬱くりかえしつつこの冬をいつしか越えぬチェチェンは遠し

○　もうやり残したことはないかと鏡にたずねてもう無いといふ悲し

『向き合う』ということ

たとえば「病と向き合う」と言うように、人は言う。
だが、実際には対峙するものと、言葉として解釈するのでは百里の距離がある。
リスク多き人生かなと思ったりもする。
そんな時に「向き合う」には、勇気を必要とする。
圧倒的な不利な条件であっても、だ。

春の訪れ　　稲沢市　今枝　清美

この大地
自分の足で　踏める喜び
父母の分まで　踏みしめよう。

春の訪れ時　土の中から
土筆が「元気ですか？」と
顔を出す。
やがて　タンポポの花も咲き
モンシロチョウが　空を舞う。

「タンポポは　なぜ　踏まれても
踏まれても　負けないのだろうか。」
「強さの秘密は　地中深くに伸ばした
根っこだ。
長いものだと、地下１メートル以上にも
なるという。」
・・・と、世界民衆詩人は謳っている。

それなら　私もしっかりと地に足を張り
ちょっとやそっとのことでは　へこたれない
自分になろう！

やがて　厳しい冬を耐え忍び
桜の木々が　芽吹きはじめ
春には、みごとなまでに咲き薫る
・・・そんな　桜の開花を
待ちわびながら・・・

痛みのものさし

稲沢市　今枝　清美

病院の診察室

「調子は、いかがですか？」と
先生が尋ねる。

私は
「かなり、痛かったです。」と答える。

すると先生は
「えっ！そんなに痛かったですか？」
「今は、どれくらい痛いですか？」
と聞きながら　白衣のポケットの中から
“痛みのものさし”を取り出し
私の体に　そっとあてる。

「おや～！　なるほど～
これは、かなり痛いですね。」
と先生が言う。

たったその一言で
私の痛みは　不思議とやわらぐ。

そんな　魔法のような
“痛みのものさし”が　あったらいいなあ。

竹頭木屑

越澤　博

○　友の会の事務所は前会長丹羽さん宅を、奥様のご好意により、丹羽さん生前同様に使わせていただいています。
近くに雨尾山観福寺（あまおざんかんぷくじ）があります。知多四国霊場会８２番札所です。知多三山と称し、行基創建と伝えられる天台宗の古刹です。
住職は道を挟んでお寺の隣に、雨尾幼稚園を経営されています。穏かな親しみのある住職で、菊作りを趣味とされています。子供を育てるように一鉢一鉢大事に育てています。並んだ菊の鉢はみごとなものです。
　　住職は園長も兼ね菊の鉢
私の写生句です。

○　２月の一日交遊会を実施するに当たって、何時もの通り埜口先生にお願いしようとしましたところ、なかなか連絡がとれず、何かあったのかなと心配しておりました。案の定、肩の骨折で休まれていました。治るのに時間がかかるようです。いちにちも早いご回復をお祈りします。
会員の皆様も転んで骨折など、されませんよう、くれぐれもご注意ください。

○　唱歌・一月一日
今年、初の音楽療法（名大病院）で、歌いました。たまたま文芸春秋二月号で片山杜秀（音楽評論家）の随筆「一月一日」を読んでいましたのでじっくり味わいました。この歌は、おごそかなのに、なにかうきうきする旋律です。１８９３年に国が祝祭日用唱歌として定められたうちの一つがこの歌だそうです。作曲者は上眞行（うえさねみち）で雅楽の楽人だそうです。ちょうど文明開化のころで、雅楽調のおごそかさと文明開化ののびやかさを上手に用いたようです。

○　２０年度の友の会入会者数は４５名でした。退会者は、死亡１２名、都合による退会者２１名で、現在　２４２名です。１９年度末に比べて１２名の増加でした。

1971年~~6~~3月７日　第３種郵便物認可　　毎月１・６の日発行
2009年　１月２６日発行　　増刊通巻第６４７７号
ＳＳＫＡ　全国パーキンソン病友の会会報・愛知県版４３号

〔原稿募集〕　あなたの生活体験、生きる喜び、こんな事ができます、
友の会と私など、実体験を書いてください。
あなたの体験を、あなた自身の手で書いてください。

〔原稿送付先〕

＊郵便送付：〒４５８－０８１２　名古屋市緑区神の倉４－１４９－４
＊ＦＡＸ　：　０５２－８７６－１２０９　（ＴＥＬに同じ）
＊メール　：　ikeda 11009 @ tea.ocn.ne.jp

〈編集後記〉

昨年後半はリーマンショックで世の中一気に冷え込んでしまいましたが、２００９年の新年は比較的暖かい幕開けでした。この調子で冷え込んだ社会を一気に暖めて欲しいとお願いする訳にはいかないでしょうか？
我々友の会も完全治癒に向けて、お互いに手を携えていきましょう。今年の友の会もいろいろな行事を予定しています。奮ってご参加ください。
当会報は、皆様のお気持ちを載せることで、お互いに伝え合いの一助になりますように、これからも努めていきたいと思います。

（池田）

・編集人　：　愛知県パーキンソン病友の会　　池田　幸夫
・発行人　：　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
〒１５７－００７３　東京都世田谷区砧　６－２６－２１
ＴＥＬ：０３－３４１６－１６９８
ＦＡＸ：０３－３４１６－３１２９
・加入者　：　全国パーキンソン病友の会愛知県支部
〒４５８－０８４７　名古屋市緑区浦里１－６８－５０８
越澤　博　ＴＥＬ／ＦＡＸ　０５０－３３３５－４９７０
・定価　：　５００円